

# 令和4年度地域運動部活動推進事業

## 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	京都市教育委員会 担当課：保健体育課 電話番号：075-414-5867
------	---

### 1. 事業の概要について

#### 1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	97校	② 生徒数	29,268人	③ 部活動数	1,067部活
--------	-----	-------	---------	--------	---------

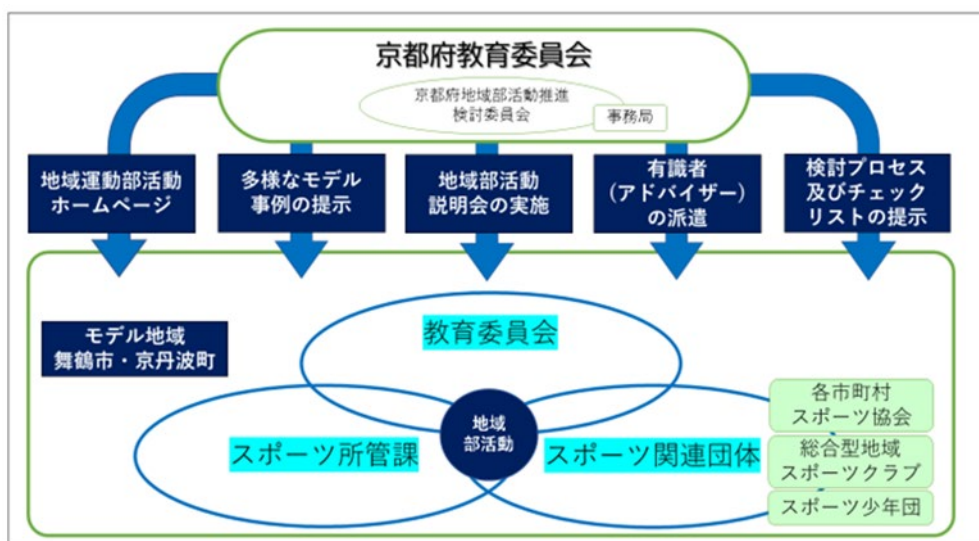
#### 1.2 地域における現状・課題

- ① 本府では生徒数減少により10年前と比較し、運動部加入生徒数も運動部設置数等が減少し、学校によっては部員確保が困難な種目もある。
- ② 令和4年度モデル地域対象アンケートの「学校の部活動も学校外のスポーツクラブ等にも所属していない生徒」が所属しない理由として、「入りたい活動がない」という回答が多く、学校にも地域にもスポーツ環境が整っていない状況が把握できた。
- ③ 学校部活動は、教師の献身的な勤務によって支えられており、長時間勤務の要因や、指導経験のない教師には多大な負担となっているケースも見られる。令和4年度モデル地域対象アンケートの「地域部活動に参加する生徒の学校部活顧問」が地域移行によって解消された課題として「休日の自身の仕事と生活の両立」「校務が多忙」が上位を占めている。
- ④ 生徒のニーズの把握と地域の資源を有効活用し、生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツの機会を保障するとともに、教師の負担軽減につながる仕組みを構築する必要がある。

#### 1.3 実践研究における取組目標

- ① 各地域の実態に応じて段階的に地域移行ができる仕組みづくりができるように府内に広く情報提供を行う。
- ② 各自治体が地域の実態や特色を生かした将来像を立てたり、具体的な連携を図るための道筋を示す。
  - ・改革の趣旨をしっかりと伝えるための説明会の開催や各自治体独自の説明会への有識者派遣
  - ・各地域が実態に応じて活動を選択できる仕組みを構築
  - ・各自治体が検討する際のプロセスや検討チェックリスト、先行地域の実施事例を提示
  - ・ホームページを作成し、地域移行に係る情報を広く共有

#### 1.4 実践研究の運営体制



### 2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

#### ① 京都府地域部活動推進検討委員会

- ・第1回（令和3年度概要報告、令和4年度事業計画、府内の状況把握、国提言及び今後の方向性、意見交流等）
- ・第2回（京都府地域運動部活動説明会の概要及び各市町村の進捗状況、モデル地域の進捗状況に検証アンケート等）
- ・第3回（モデル地域の事業報告、京都府事業報告、アンケート検証結果、プロセスや検討チェックリストや事例の提示等）

## ②説明会の実施（自治体向け、スポーツ関係団体向け）

- ・第1回 令和4年8月3日（水）「改革への理解」、「意識づけ」、「行政機関のリーダーシップ」  
対象：各市町村スポーツ所管課、教育委員会、スポーツ協会  
内容：地域移行の概要（スポーツ庁より）、モデル地域実践報告、パネルディスカッション
- ・第2回 令和4年9月5日（月）「各自治体内での連携」、「着手できる手法の模索」  
対象：各市町村スポーツ所管課、教育委員会、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ代表、スポーツ少年団代表  
内容：先行実施地域基調講演（つくば市教育委員会、白岡市教育委員会）、自治体別意見交流
- ・第3回 令和4年11月24日（木） オンライン中継「令和5年度予算の概要要求状況の把握」、「移行手順の把握」  
対象：各市町（組合）教育委員会 / 内容：国の概算要求及び府の予算要求状況、アドバイザー派遣、府推進計画
- ・第4回 令和5年2月17日（金） オンライン中継「令和5年度予算の把握」  
対象：各市町（組合）教育委員会 / 内容：令和5年度予算

## ③地域運動部活動支援アドバイザーの派遣

希望する市町村へアドバイザーを派遣し協議会設置に向けた助言を行った。

アドバイザー：地域部活動推進検討委員会委員長、京都府教育委員会指導主事

## 3. 実践研究の成果と今後の課題

### 3.1 実践研究での検証から得た成果

検証項目① 生徒にとって魅力ある活動につながったか（生徒の満足度）	
成果	①専門的な指導者による知識・技術の提供を実感 ②人数不足による活動の制限が解消 ③学校部活動の良さに加え、礼儀の習得や新しい友人との交流を実感 ④平日と異なる指導者による新しい学びを実感
課題	①平日と休日との指導方法の矛盾 ②バラスポーツやアーバンスポーツへの関心 ③部活動やクラブに所属しない（関心のない）生徒へのいざない ④保護者の負担（経費、送迎等）
手立て	①平日と休日で指導者が異なる場合の緊密な連携 ②地域が持つ資源や生徒のニーズの把握 ③多くの関係者によるネットワークの構築 ④受益者負担も含めた関係者の経費等負担の分担の整理

検証項目② 教員にとって負担感の軽減につながったか（教員の負担度）	
成果	①専門的指導力不足の解消 ②休日のライフスタイルの改善 ③休日の心身の疲労感の改善
課題	①教員の土曜日の学校部活動、日曜日の地域部活動による土日勤務 ②指導者の高齢化（指導者の確保・育成） ③平日の部活動とのつながり（指導方針、活動場所等）
手立て	①希望する教員の一定の要件に基づく兼職兼業の許可 ②人材バンク等の整備や広報活動等による指導者の確保 ③地域移行ありきではない、地域のスポーツ・文化振興のグランドデザインの構築

### 3.2 地域移行における今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】
<b>【地域特有の課題への対応策】</b> ①京都府地域クラブ活動推進検討委員会（仮称）によるモデル地域の実践研究への指導助言 ②京都府地域クラブ活動推進検討委員会（仮称）における「スポーツ部会」「文化部会」の連携 ③アドバイザー派遣による各地域での具体的協議への指導助言 ④市町村・地域住民・学校関係者向け説明会 ・学識経験者による部活動改革や地域移行に関する講演 ・モデル地域によるパネルディスカッション ・府推進計画策定、部活動指針一部改正に係る行政説明 ・府中体連による府中学校総体の参加特例に係る説明

【受け皿団体の確保方策】・【指導者の確保方策】
①人材バンクの開設に向けた府スポーツ協会や競技団体等との連携に向けた研究 ②既存人材バンクの調査 ③府立学校へのスポーツクラブの新設 ④府立高校附属中学校の部活動改革に係る高校部活動との連携整理

【地域移行の自走化に向けた方策】
（具体的なイメージをもつ） ①府の方針を明確化するための推進計画の策定を進める ②府の推進計画を踏まえた「部活動指導指針」の一部改正 ③公開地域部活動にて、実際の運営等を見学 ④地域部活動説明会及び研究協議会にてモデル地域の進捗状況を把握

## 令和4年度京都府地域運動部活動推進事業の検証に係るアンケート結果

### I 調査の概要

調査期間 令和4年12月14日（水）～ 令和5年1月20日（金）

調査地域 舞鶴市、京丹波町

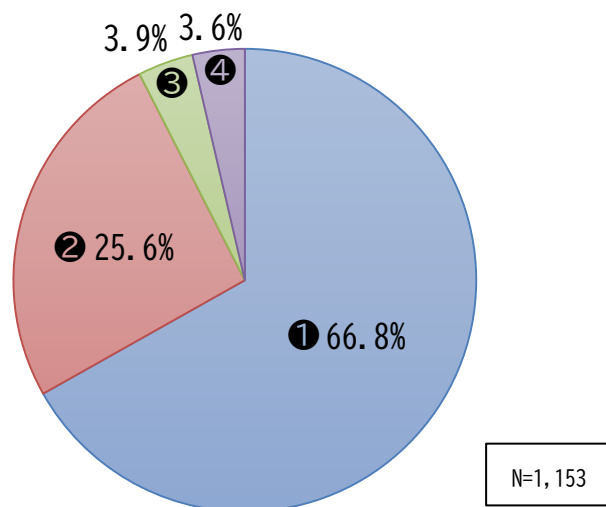
調査対象及び有効回答

対 象	対象数	回答数	回答率
舞鶴市立及び京丹波町立中学校の第1・第2学年生徒	1,548	1,153	74.5%
地域部活動参加生徒	224	57	25.4%
地域部活動参加生徒の保護者	226	52	23.0%
地域部活動参加生徒が所属する学校の部活動顧問	38	22	57.9%
地域部活動指導者	47	14	29.8%

## Ⅱ 調査結果

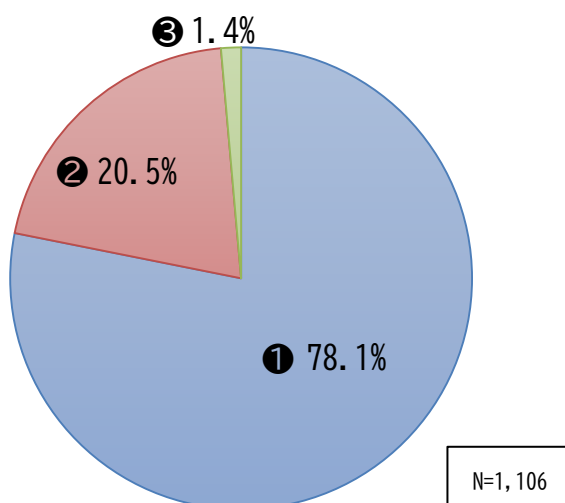
### 1. 舞鶴市立及び京丹波町立中学校の第1・第2学年生徒

#### 1.-① 所属の状況



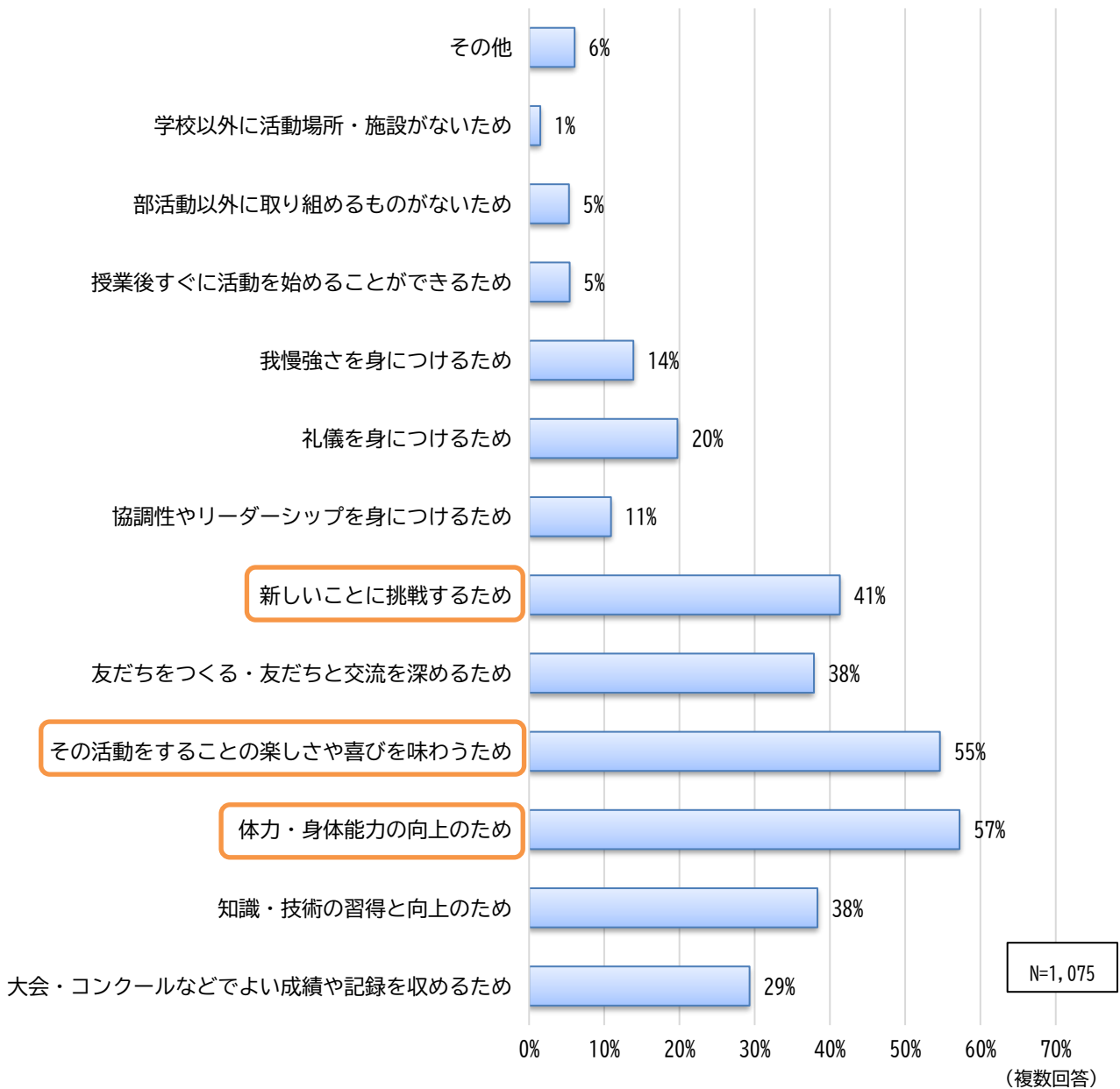
- ① 学校の部活動に所属している
- ② 学校の部活動に所属し、学校外でのクラブや習い事もしている（学習塾除く）
- ③ 学校外でのクラブや習い事をしている（学習塾除く）
- ④ 学校の部活動も、学校外でのクラブや習い事もしていない

#### 1.-② <学校部活動に所属している> 部活動の種類



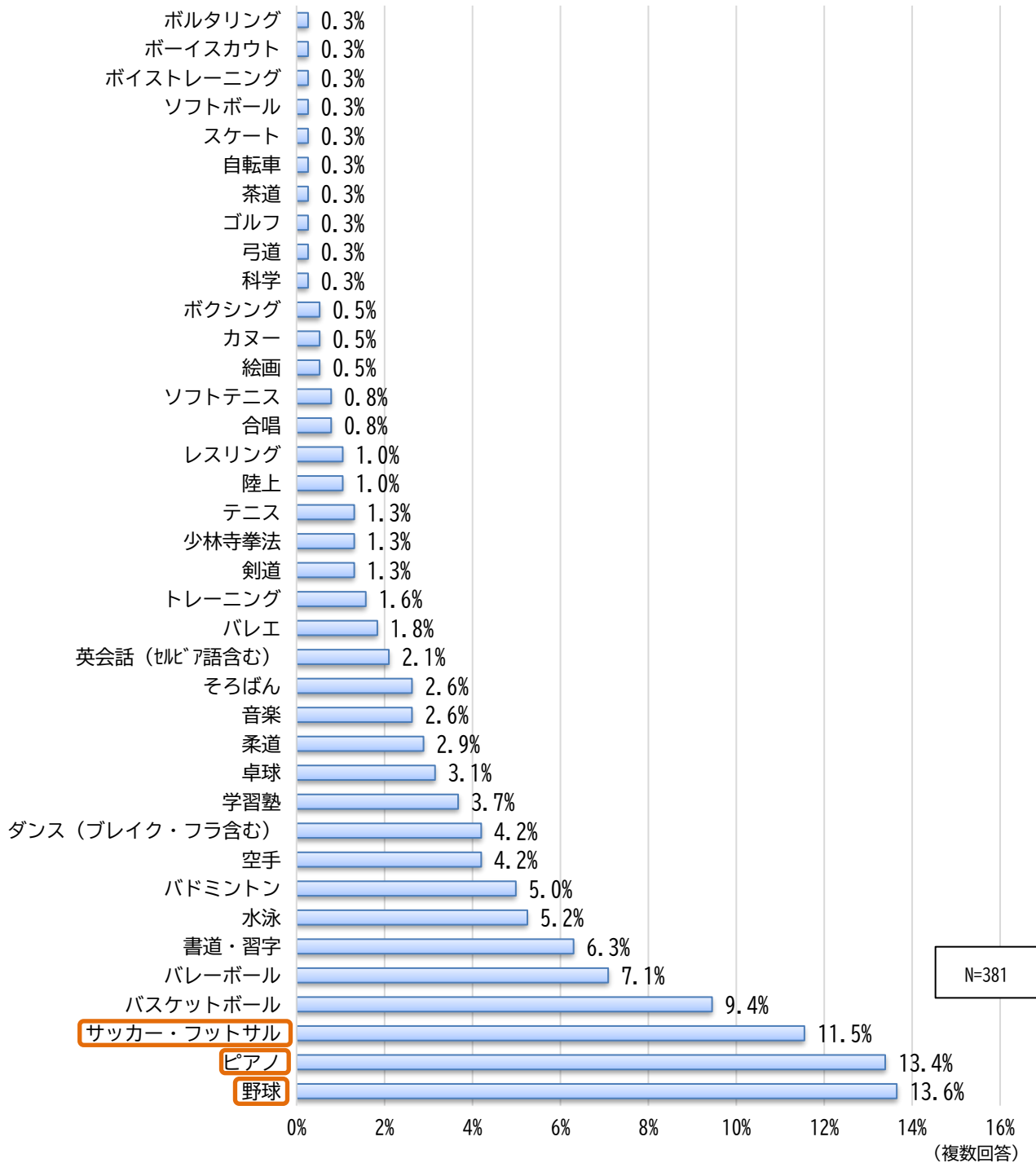
- ① 運動部
- ② 文化部
- ③ 運動部と文化部を兼ねている

1.-③ <学校部活動に所属している> 学校部活動に所属する理由



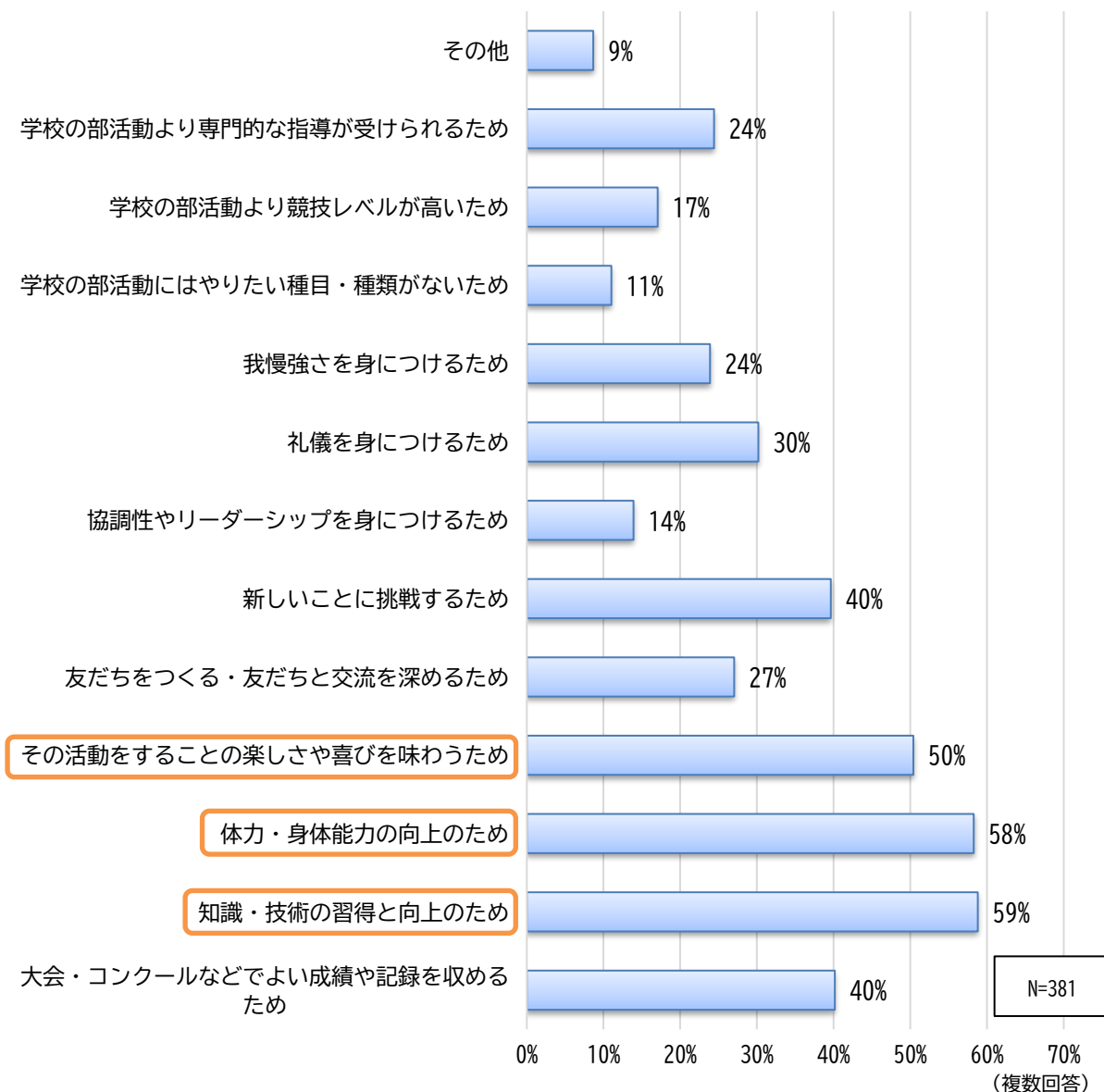
- その他の理由として「夢のため」「自分の中で一番好きなこと」等、肯定的な回答が半数以上を占めた。
- 入学後の体験入部の様子から「体験した時に楽しかった」の回答もあった。
- 一方で、「入らないといけない」が29%、「なんとなく」が12%、「特になし」が6%であった。

1.-④ 学校外でのクラブや習い事に所属している



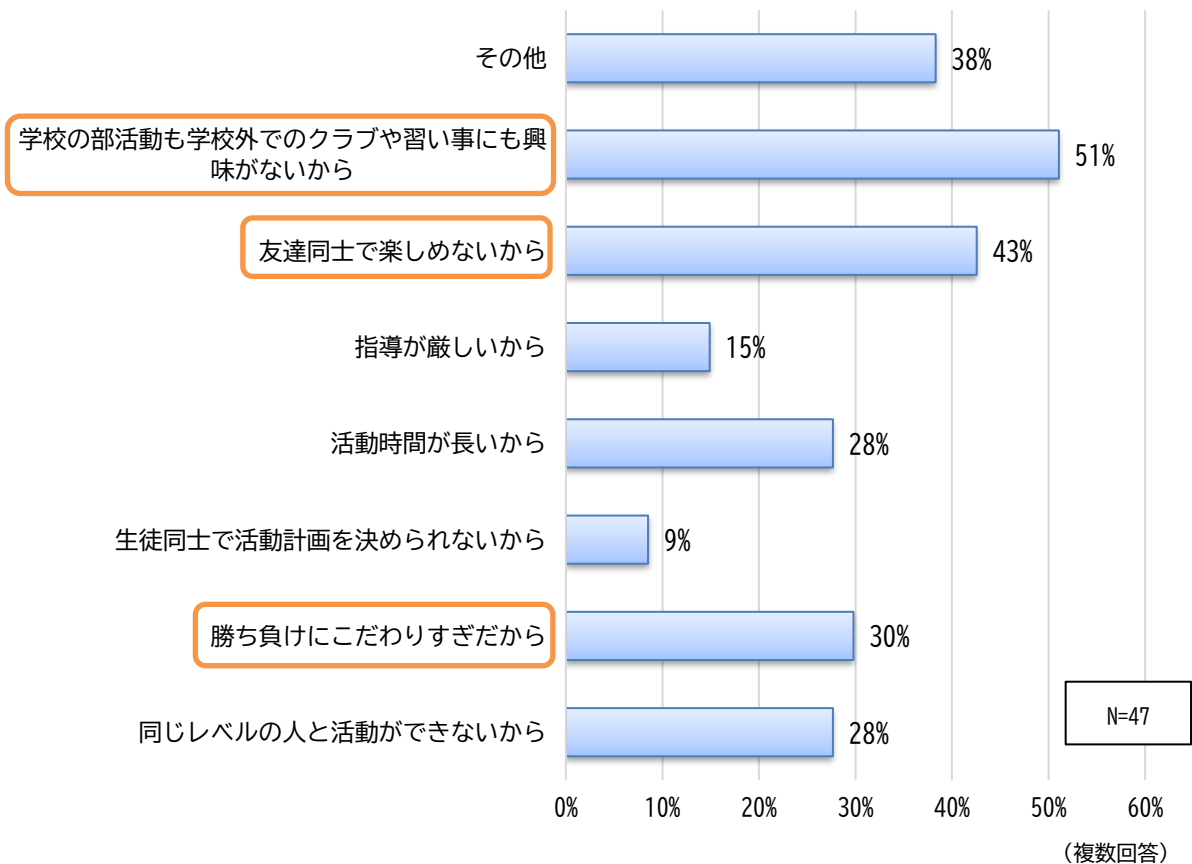
- 「野球」「サッカー」「バスケットボール」「バレーボール」の団体種目が、上位に挙がった。
- 「ピアノ」「書道」等文化系の習い事も上位に挙がった。

1.-⑤ <学校外でのクラブや習い事に所属している> 学校外で所属する理由



- 「体力・身体能力の向上」「知識・技術の習得と向上」といった競技志向が高い一方で、「楽しさや喜びを味わうため」のニーズも高い。
- その他としては、「好きだから」「夢を叶えるため」「友達に誘われたから」「学校部活動より長くできる」の回答もあった。

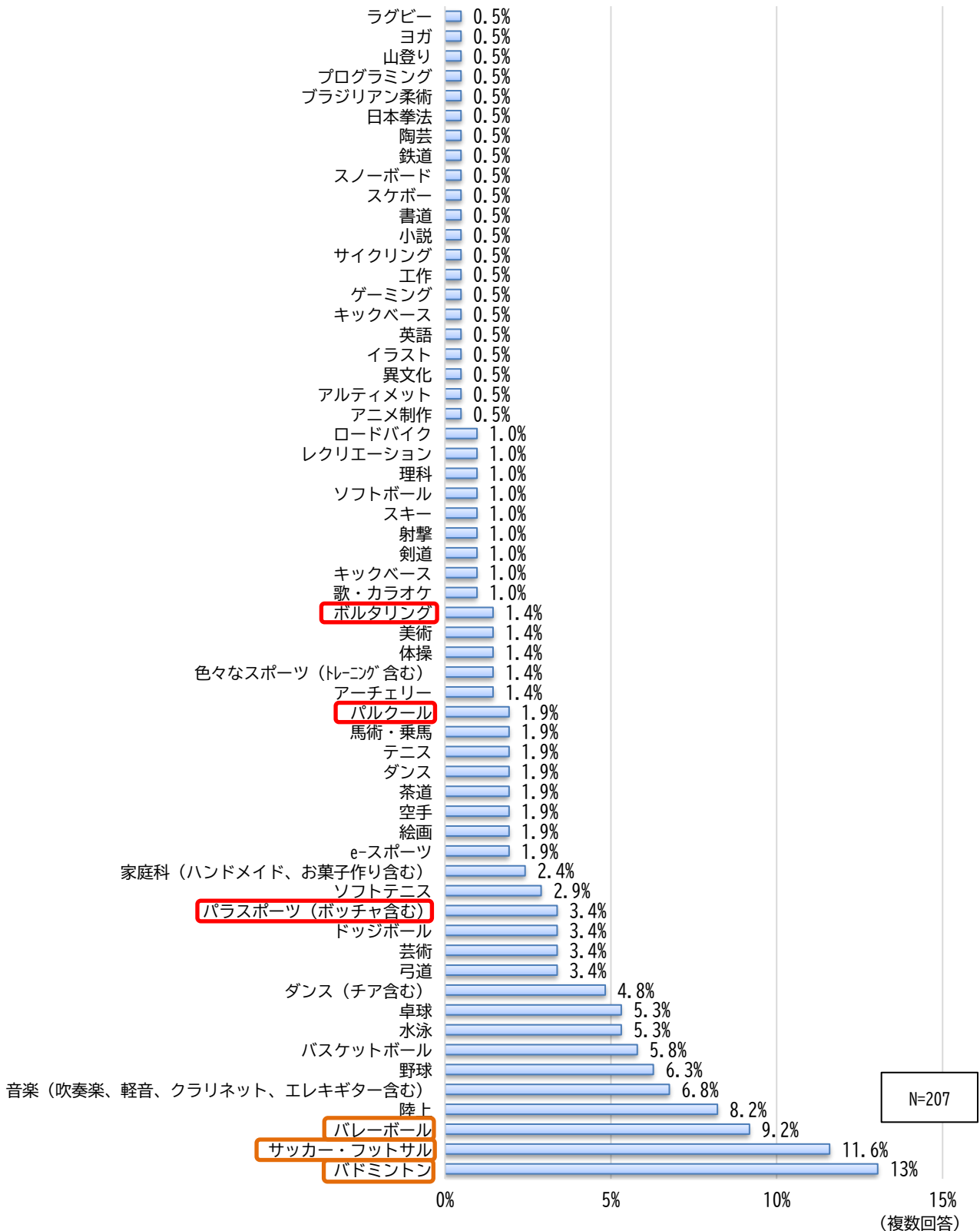
1. -⑥ <学校の部活動も学校外にも所属しない> 所属しない理由



- その他としては、「運動が苦手だから」といった回答の他、「入りたい部活動がない」など、入りたいけど、やりたい種目がないといった回答もあった。
- 「体力がないけど、入ってみたい」という前向きな回答もあった。
- 「顧問や友達との人間関係がうまくいかず辞めた」という回答もあった。



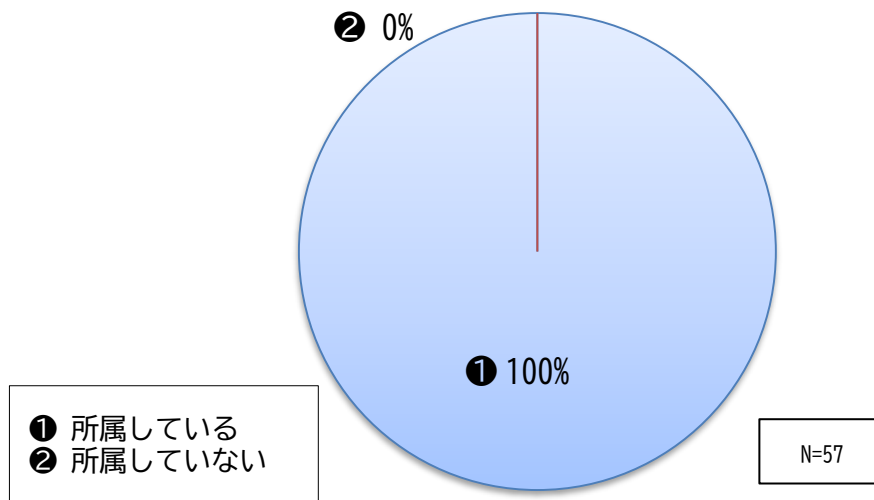
⑦ <全員に質問> 学校外で参加してみたいクラブや習い事



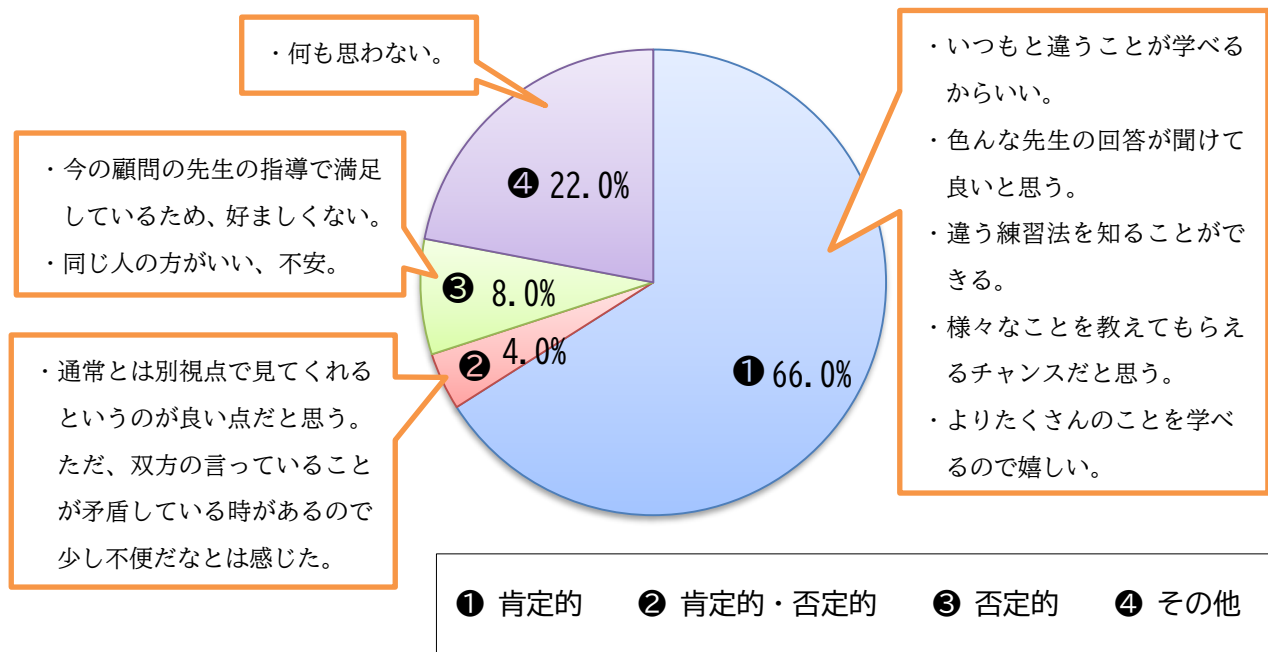
- 「パラスポーツ」や「ボルダリング」「パルクール」等のアーバンスポーツにも興味がある。
- 「楽しむだけのふんわりとした種目」「誰でも参加できるカラオケ」「障がい者の方とふれあいたい」といった回答もあった。

## 2. 地域部活動参加生徒

### 2.-① 学校の部活動に所属している状況

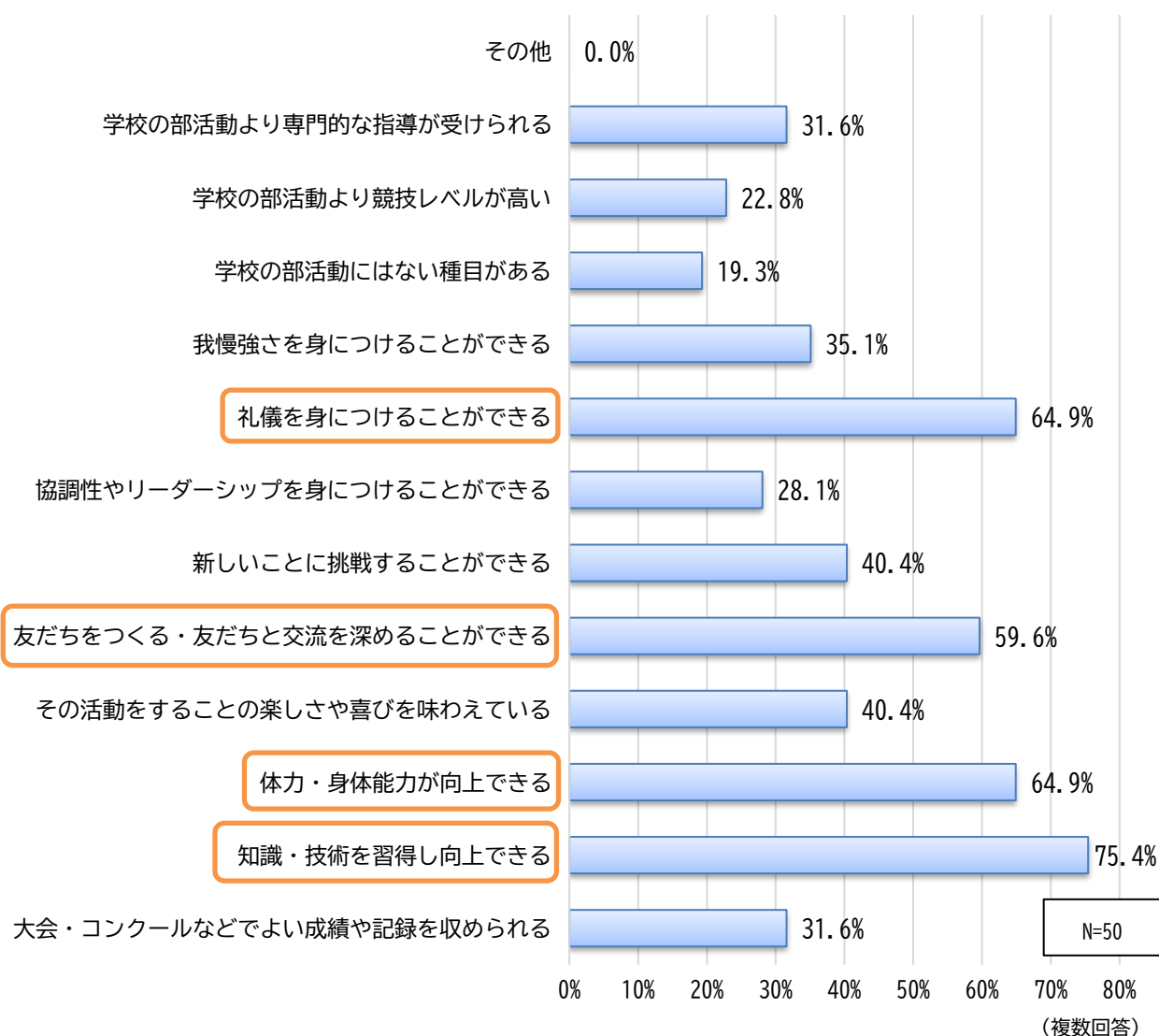


### 2.-② 平日と休日で指導者が変わることに



- 指導者が平日と休日で替わることに對して、肯定的な回答が多くみられた。
- 双方の指導が違ふといった点より、フォローする指導者や学校との連携が大切であると考えられる。

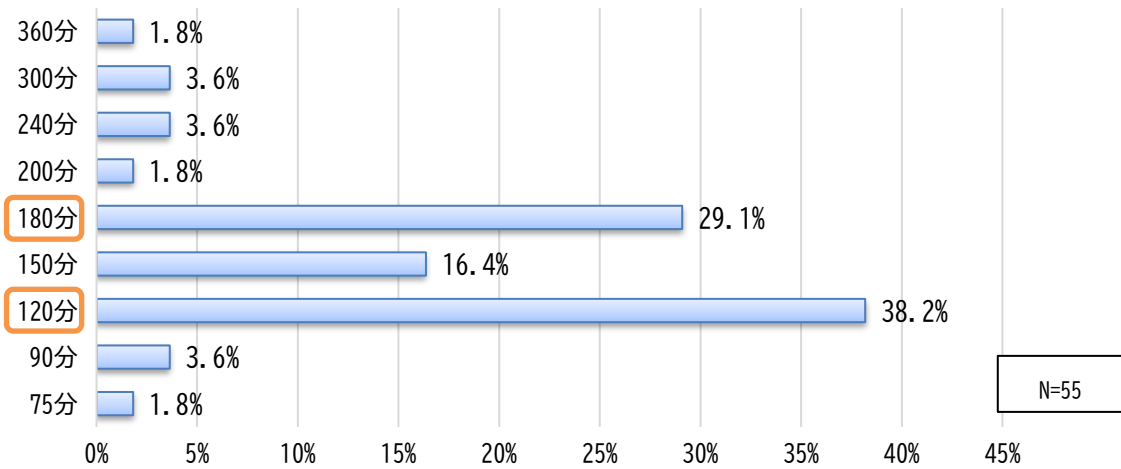
## 2. -③ 地域部活動に参加して良いと思うこと



- 専門的に教えてもらえるため、「知識・技能を習得し向上できる」の回答が多く見られたほか、他校の生徒と一緒に活動ができるなど「友だちと交流を深めることができる」の回答も上位に挙がった。

## 2. -④ 休日の活動で適切と思われる時間

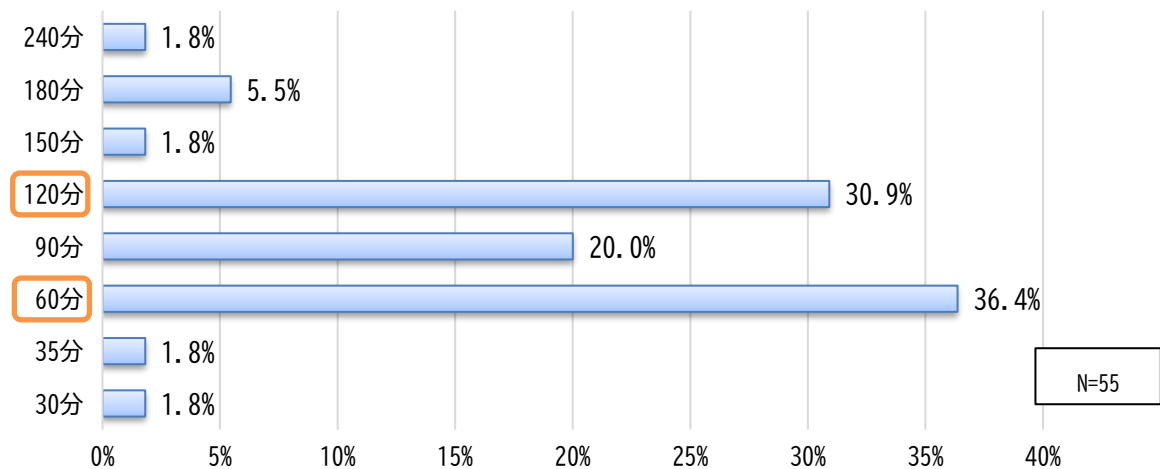
平均 157.2分



- 部活動指導指針（休日3時間程度）で示しているように、2～3時間程度が適切であるとの回答が多い。

## 2. -⑤ 平日の活動で適切と思われる時間

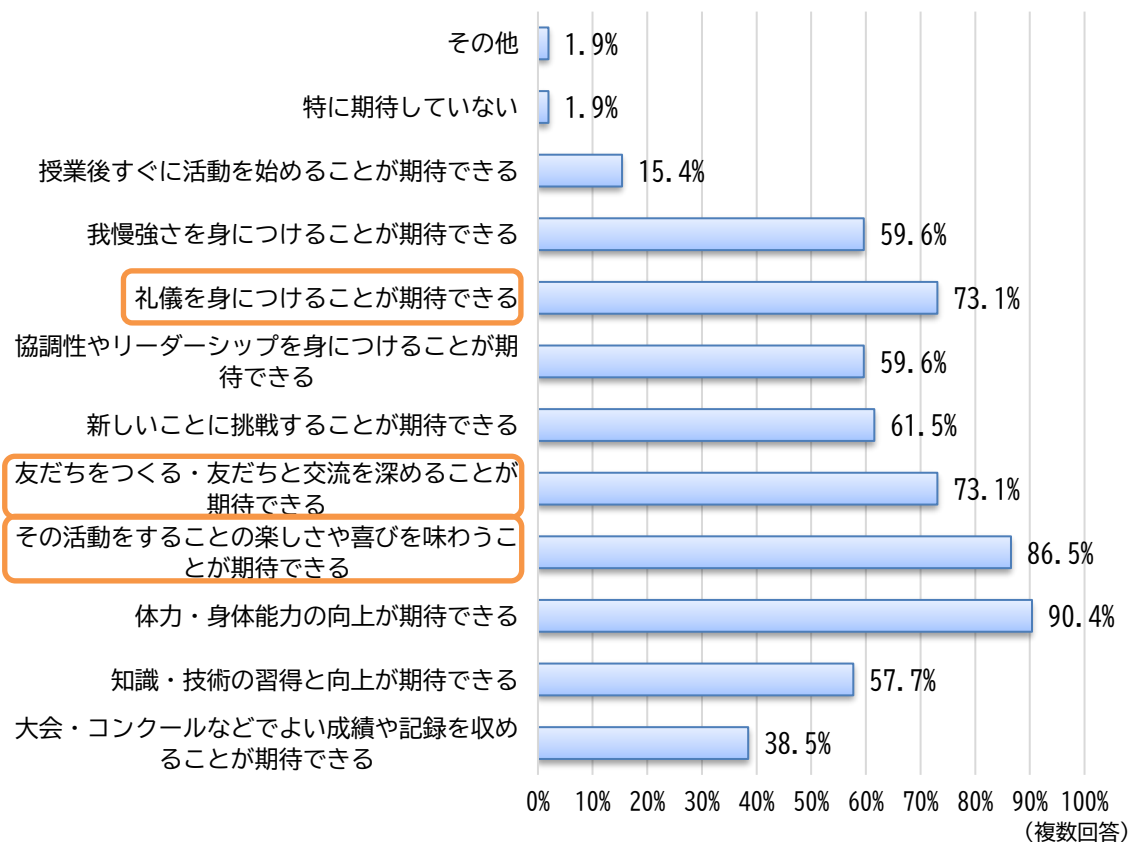
平均 95分



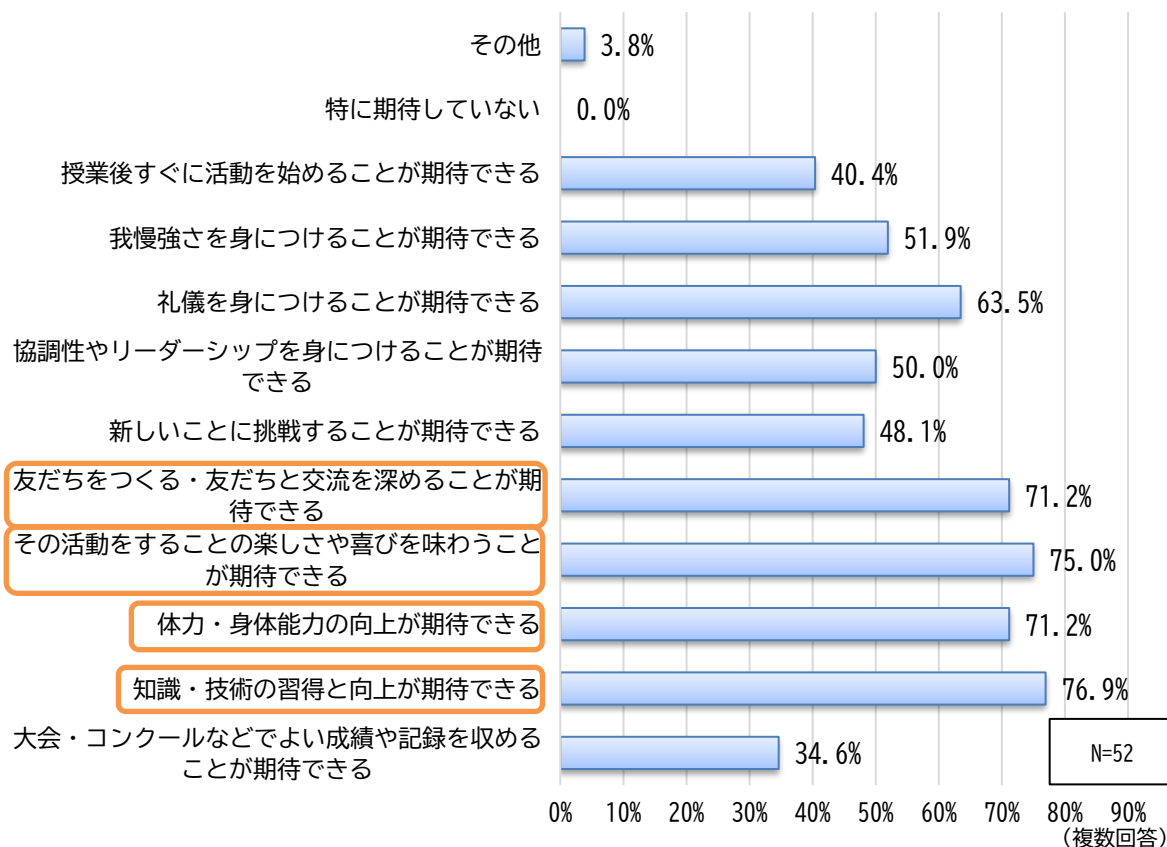
- 部活動指導指針（平日2時間程度）で示しているように、1～2時間程度が適切であるとの回答が多い。

### 3. 地域部活動参加生徒の保護者

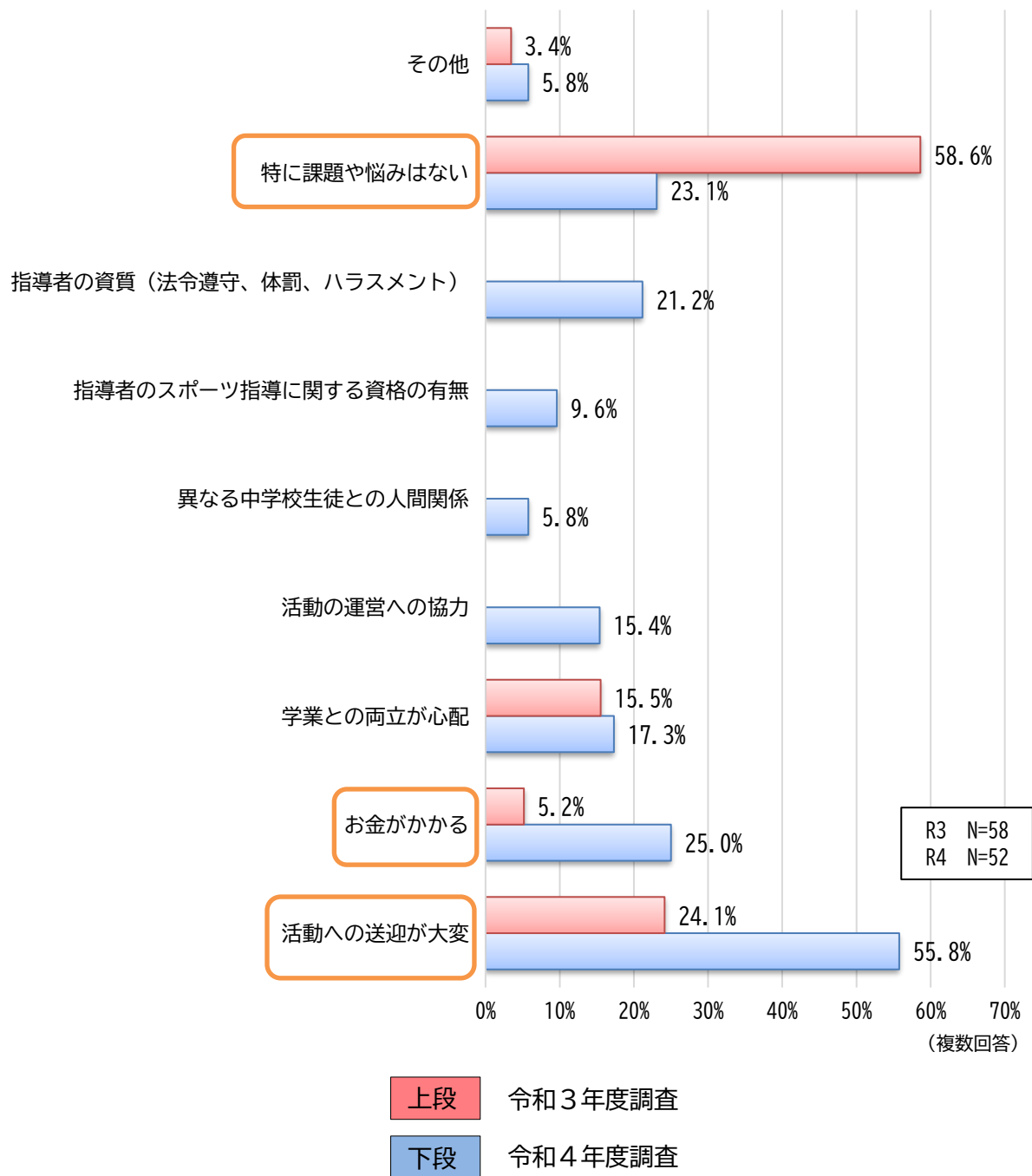
#### 3.-① 学校の部活動に期待すること



#### 3.-② 地域部活動に期待すること

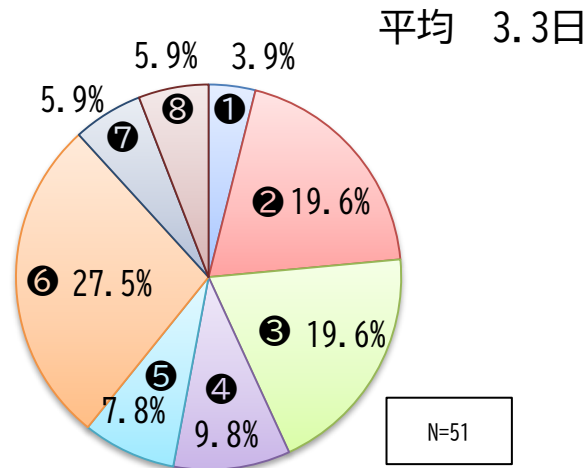


### 3. -③ 地域部活動を進める上での負担や不安



○ 「送迎が大変」「お金がかかる」が上位に挙げられた。昨年度との比較では、「特に課題や悩みがない」が減少し、「送迎が大変」「お金がかかる」の割合が増加している。

3.-④ 地域部活動の平日も含めた1週間の活動日数



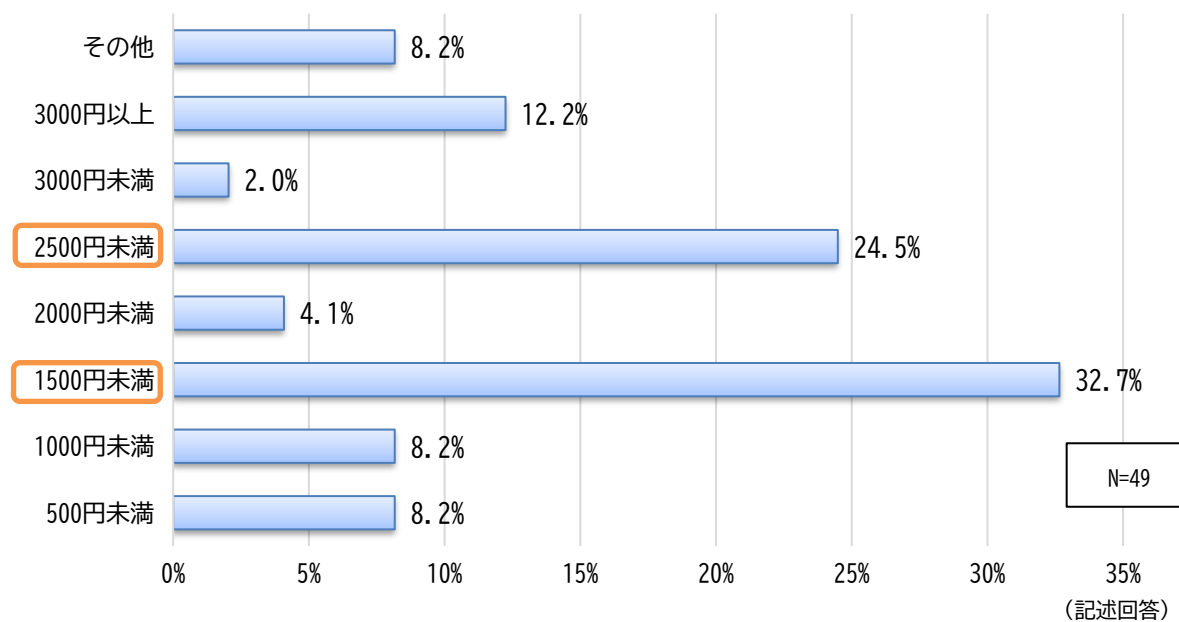
① 1日未満 ② 2日未満 ③ 2日 ④ 3日 ⑤ 4日 ⑥ 5日 ⑦ 6日未満 ⑧ 6日以上

(記述回答)

- 「5日」を希望する回答が多かった。次いで「2日」「2日未満」と続いている。

3.-⑤ 地域部活動に週1日・月4日程度参加すると仮定した費用負担額

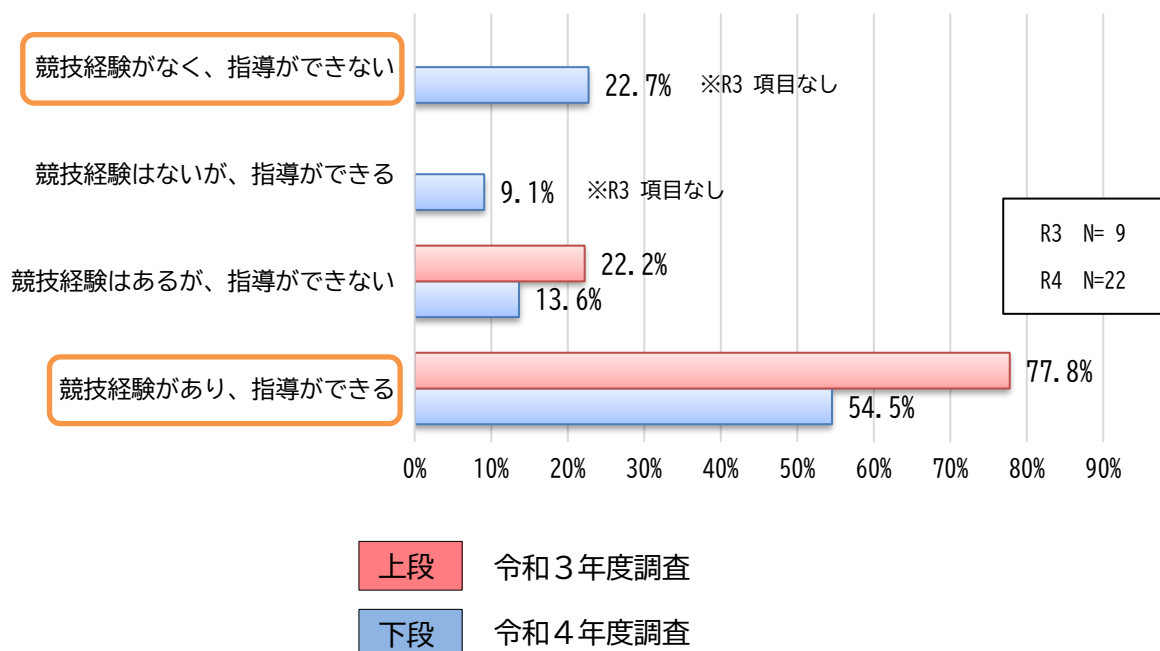
平均 1,568円



- 1ヶ月あたり「1,500円未満」「2,500円未満」が上位に挙げられた。
- その他の回答には、「なぜ払わないといけないのか」「部活動に費用が発生することに違和感を感じる」といった回答も見られた。

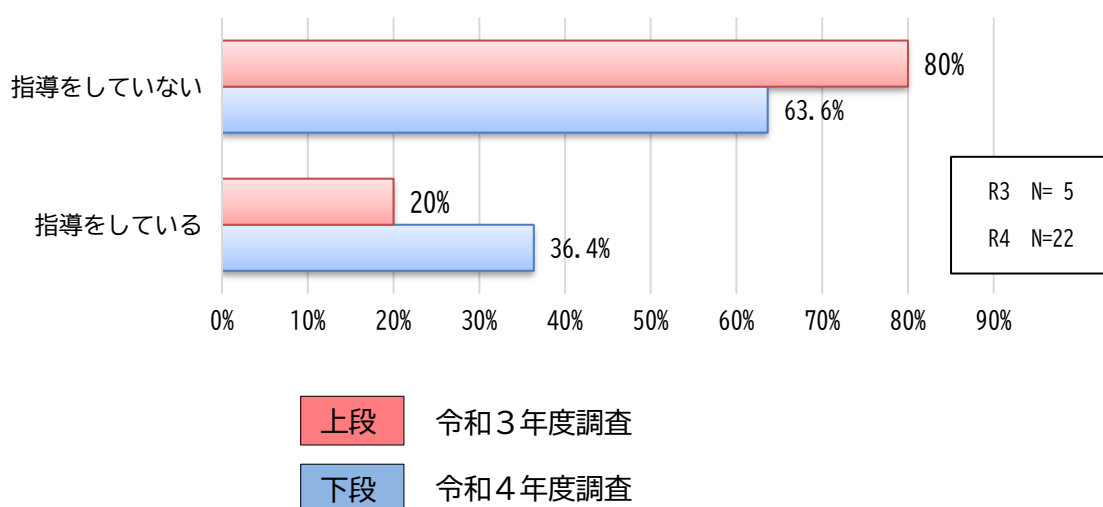
#### 4. 地域部活動参加生徒が所属する学校の部活動顧問

##### 4.-① 担当している部活動の競技経験



- 「競技経験があり、指導できる」と「競技経験がなく、指導できない」が二極化している。
- 昨年度と比較では、「競技経験があり、指導ができる」が減少している。

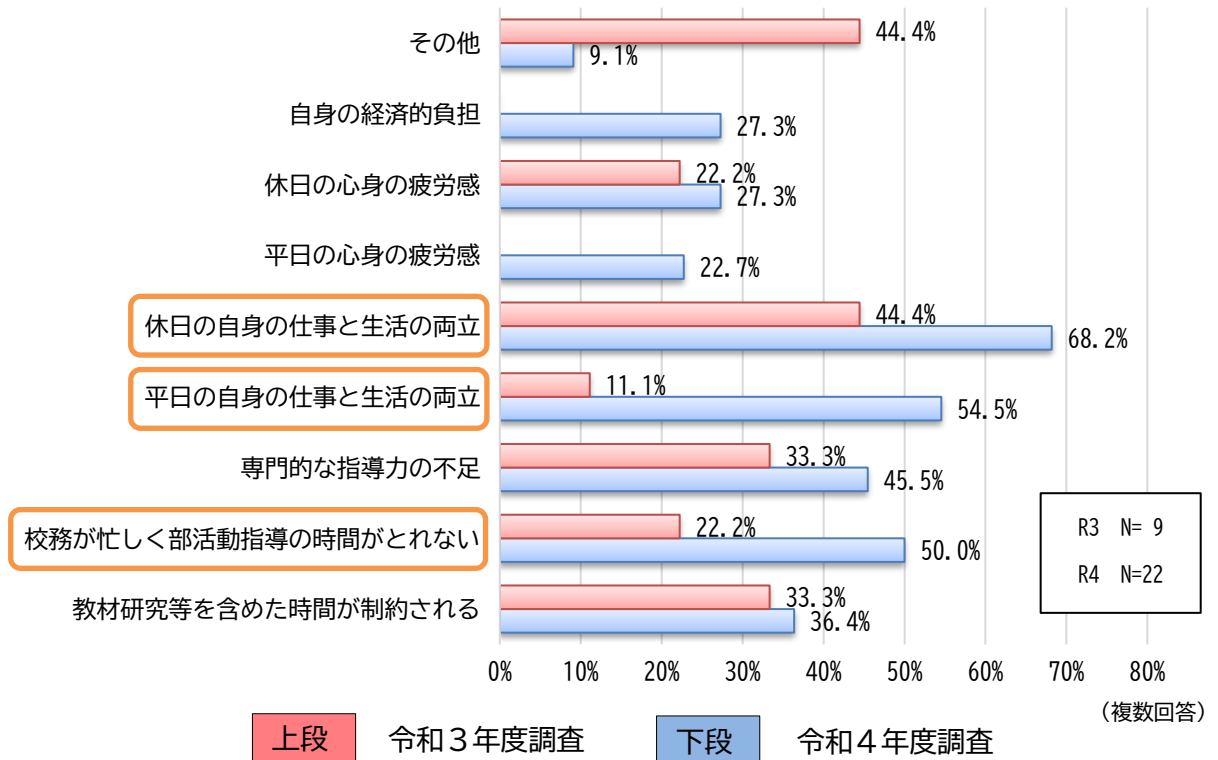
##### 4.-② 地域部活動の指導者としての指導



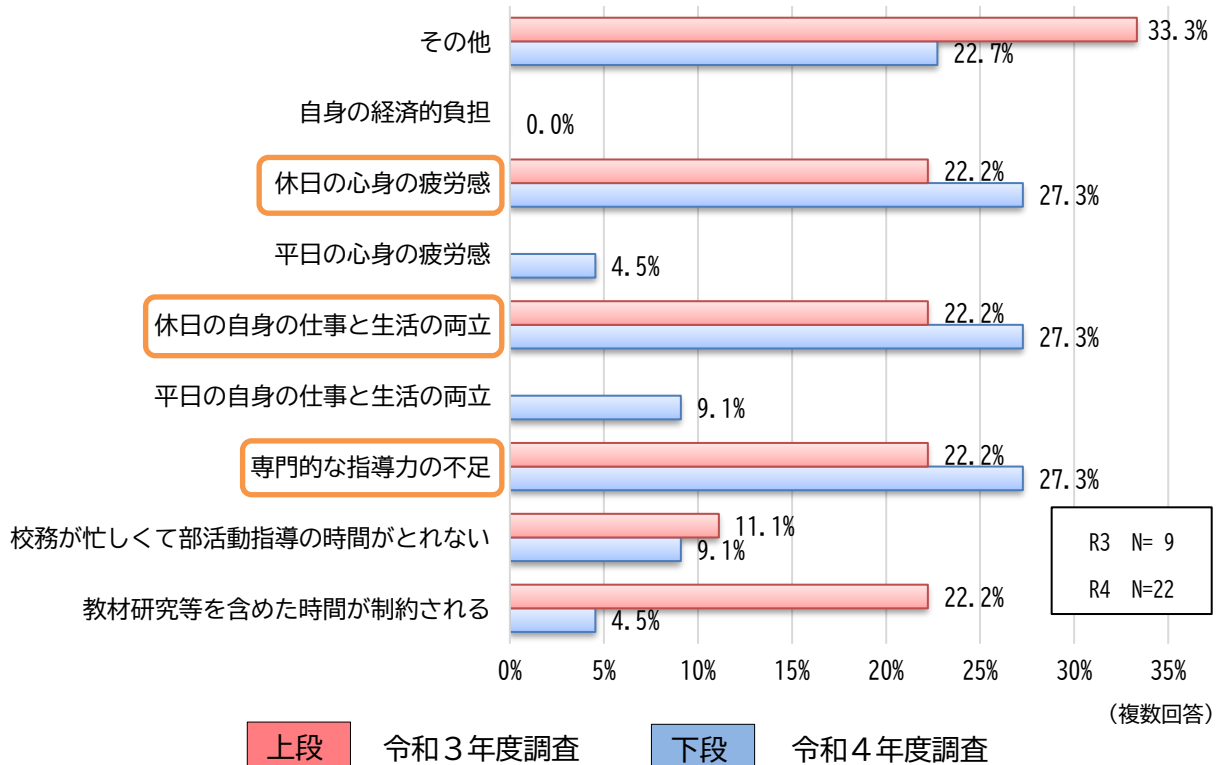
- 地域部活動指導者の担い手となる教員が増加している。



#### 4. -③ 部活動の悩みや課題

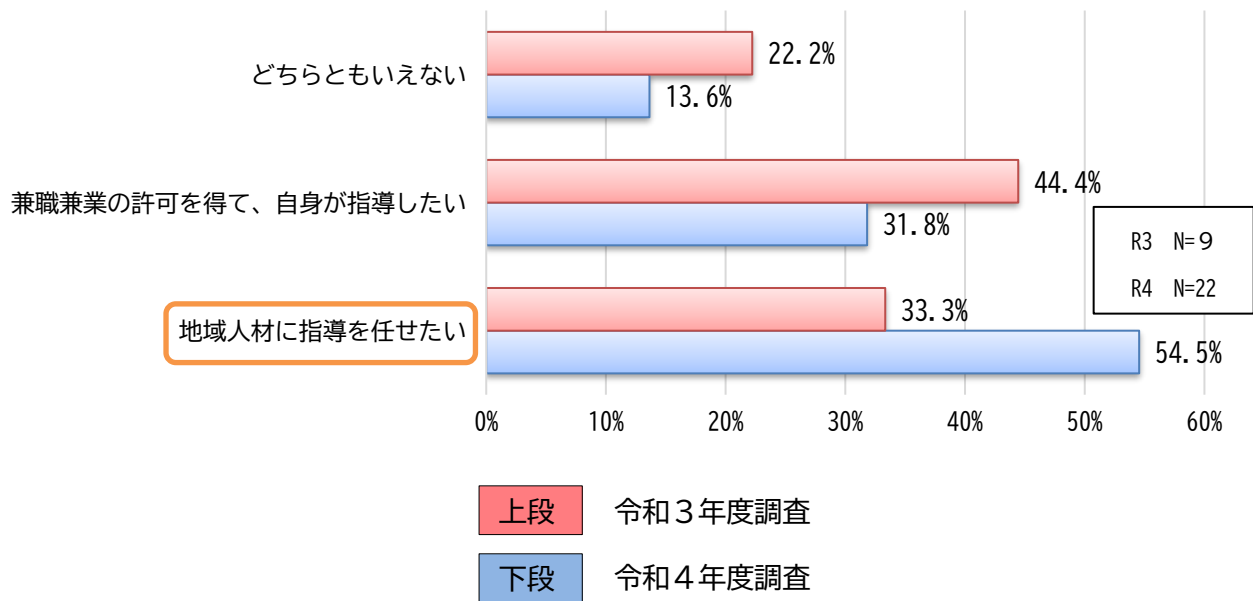


#### 4. -④ 担当している部活動が地域へ移行したことで解消した悩みや課題



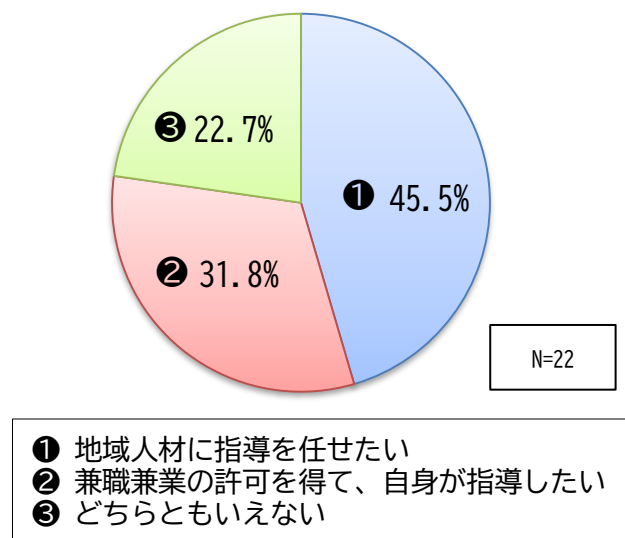
○ 昨年度と比較をすると、「休日の疲労感」「休日の仕事と生活の両立」「専門的な指導力不足」の解消の割合が増加している。

4. -⑤ 部活動の地域移行が休日において完全に導入された場合の意向



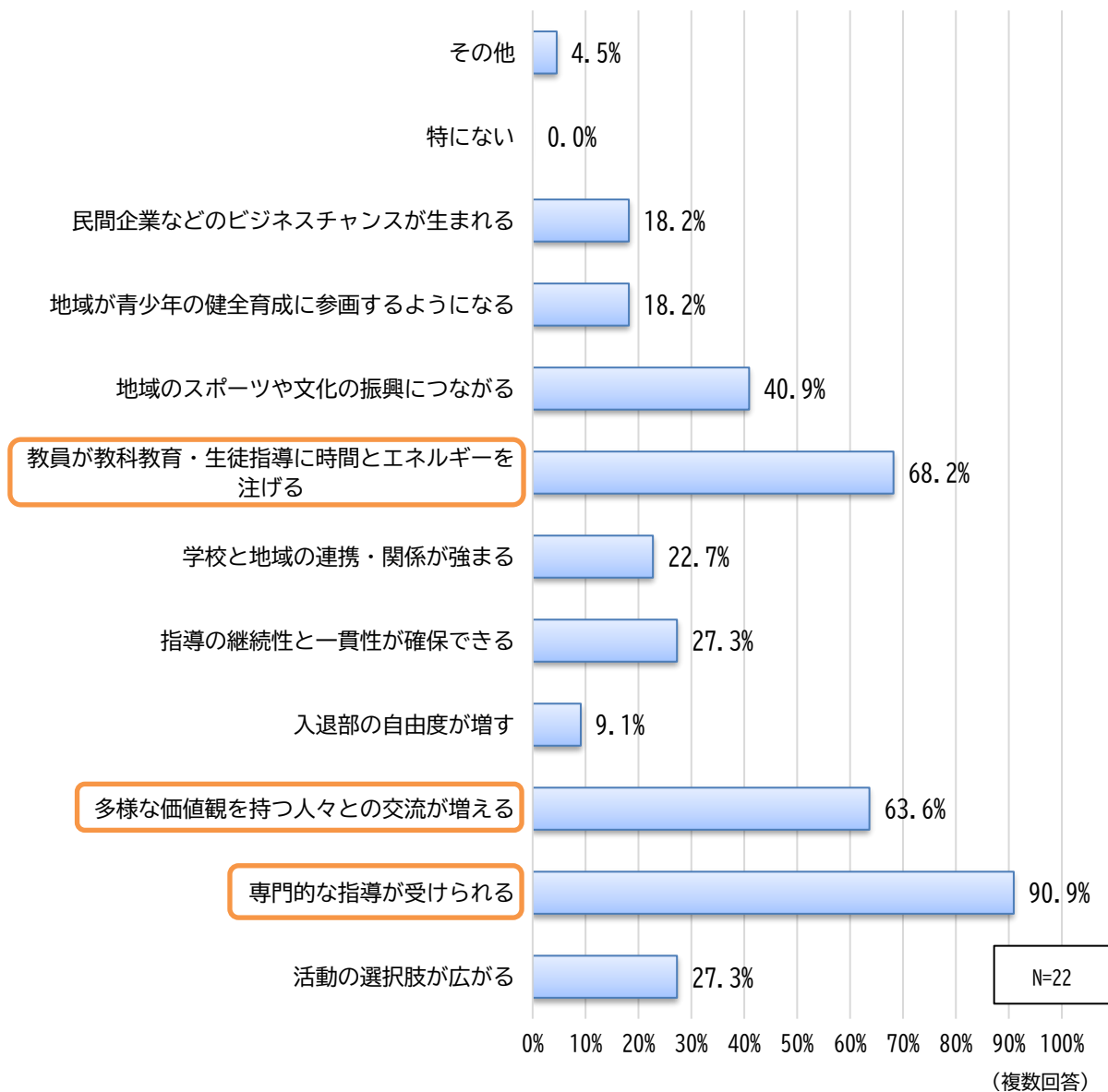
○ 休日においては、「地域人材に指導を任せたい」の割合が半数を占める。昨年度と比較すると増加している。

4. -⑥ 部活動の地域移行が平日に導入された場合の意向



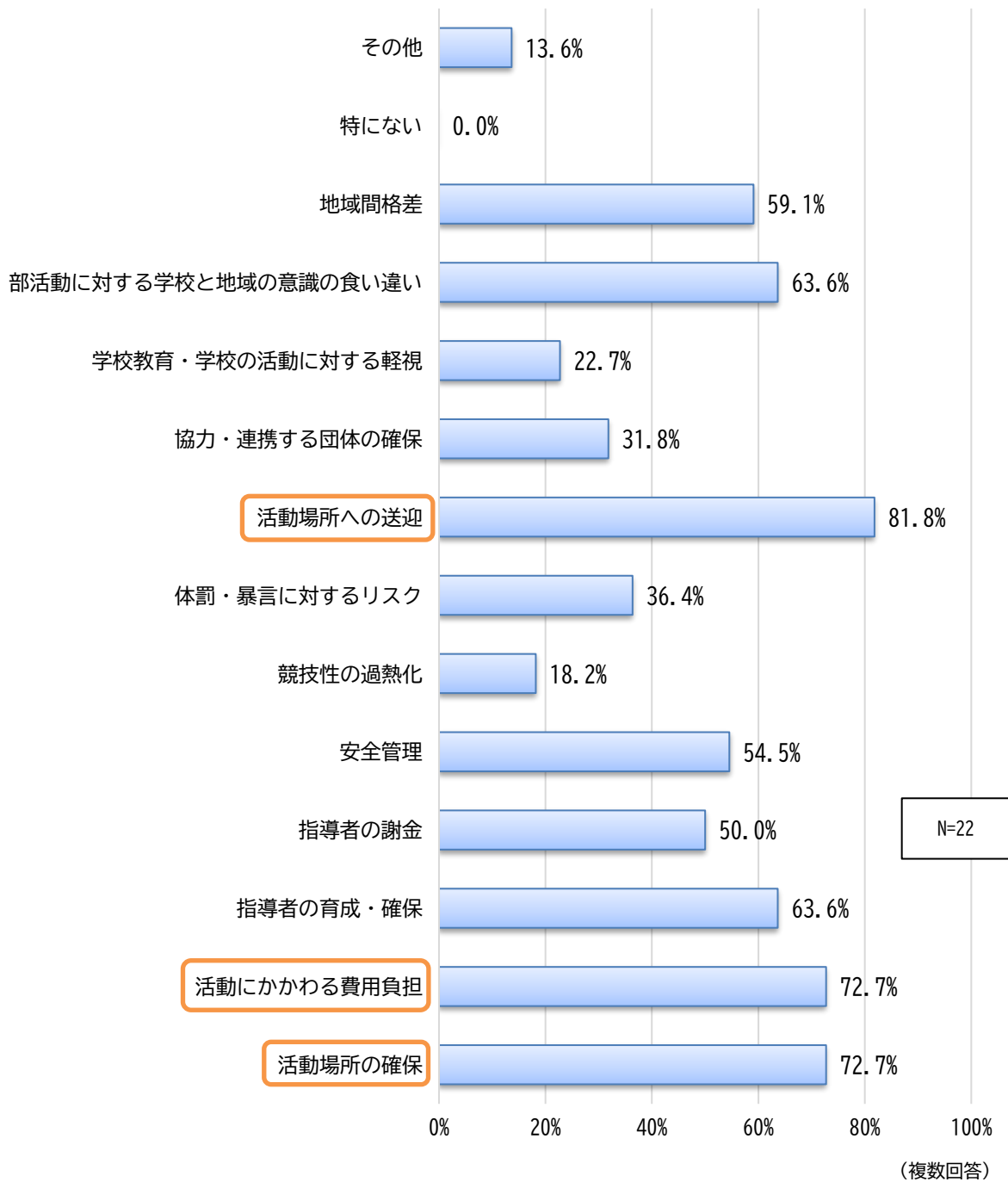
○ 平日も「地域人材に指導を任せたい」の割合が多いが、休日・平日ともに「兼職兼業の許可を得て、自身が指導したい」の割合は同程度である。

#### 4. -⑦ 部活動を地域が担うことへの期待



- 「専門的な指導が受けられる」の割合が9割を占める。
- 「教員が教科指導・生徒指導に時間とエネルギーを注げる」の割合が高く、学校の働き方改革への期待を示している。
- 「多様な価値観を持つ人々との交流が増える」が続く。

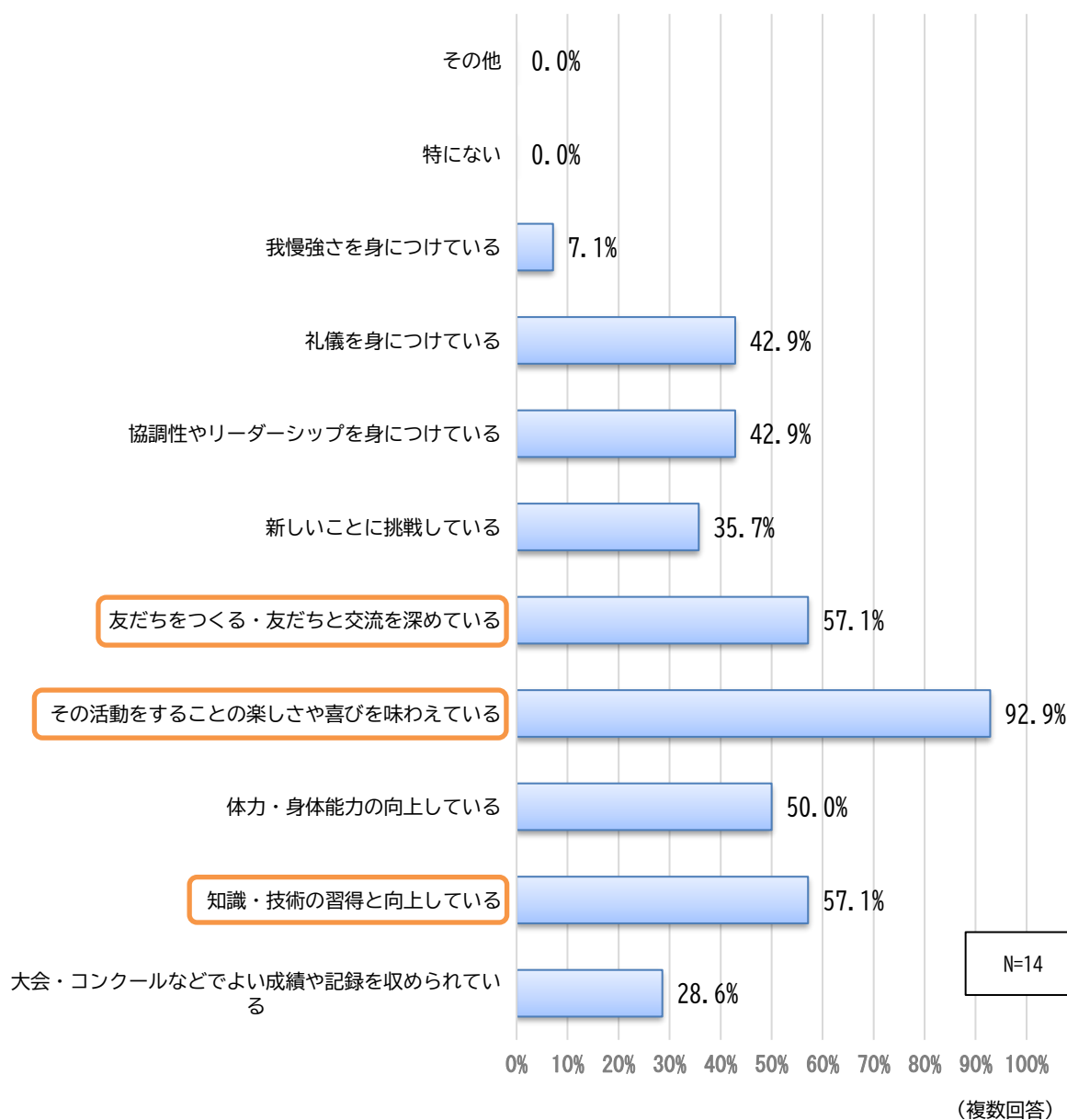
#### 4. -⑧ 部活動を地域が担うことによる課題



- 「送迎」や「活動場所の確保」、新たに発生する「費用負担」への課題が挙げられた。

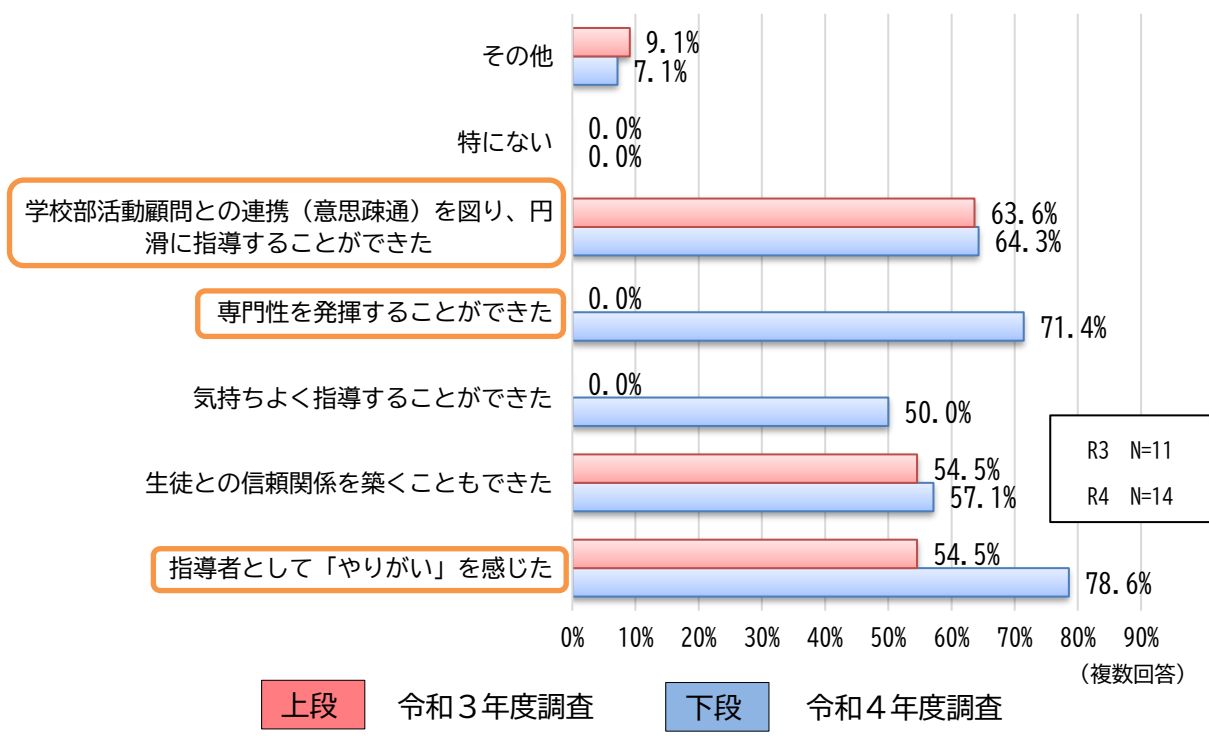
## 5. 地域部活動指導者

### 5.-① 参加している生徒の様子



- 「活動をする楽しさや喜びを味わっている」の回答が90%を占める。

5. -② 指導をして感じたこと



○ 「指導者としてやりがいを感じている」「専門性を発揮できた」との回答が上位に挙がった。

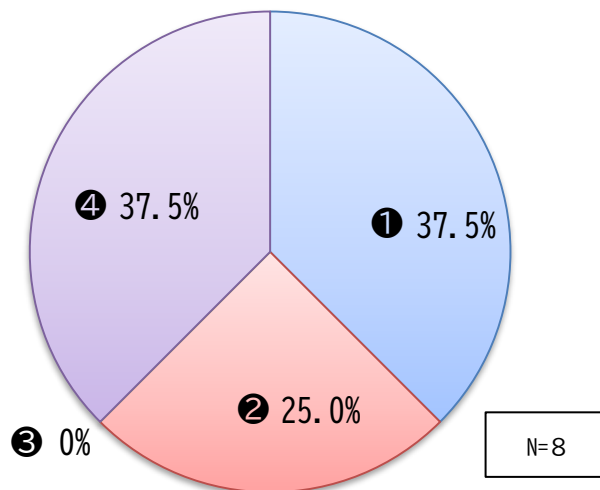
5. -③ 指導の際の苦労や課題

- 生徒・保護者との連絡方法
- 多数の生徒を同時に指導する難しさ
- より多くの生徒が楽しめる工夫
- 生徒に関する学校との情報共有
- けがの発生時の初期対応や責任の所在
- 活動と日常生活を結びつけた指導
- 学校部活動と地域部活動の調整
- 人数の把握が難しく、計画的な指導になりにくい
- 開催場所により、生徒の参加状況が変動
- 多数の生徒に対する安全面の配慮

(記述回答)

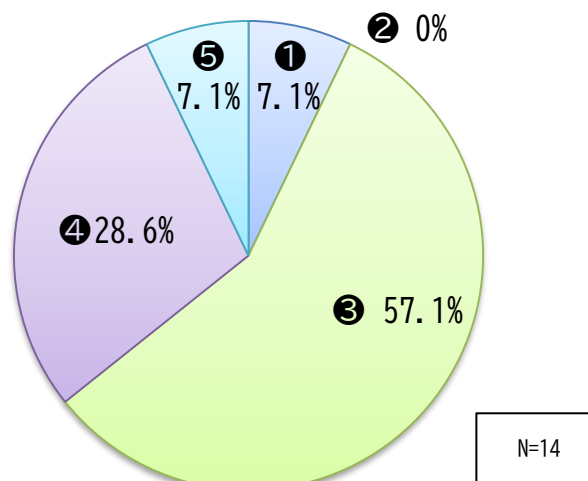
N=14

5. -④ 公認指導者資格の保有状況



- ① 現在、保有（受講）している
- ② 以前保有していたが、現在は失効しており、今後取得したい
- ③ 以前保有していたが、現在は失効しており、今後取得することは考えていない
- ④ 保有したことはないが、今後取得したい

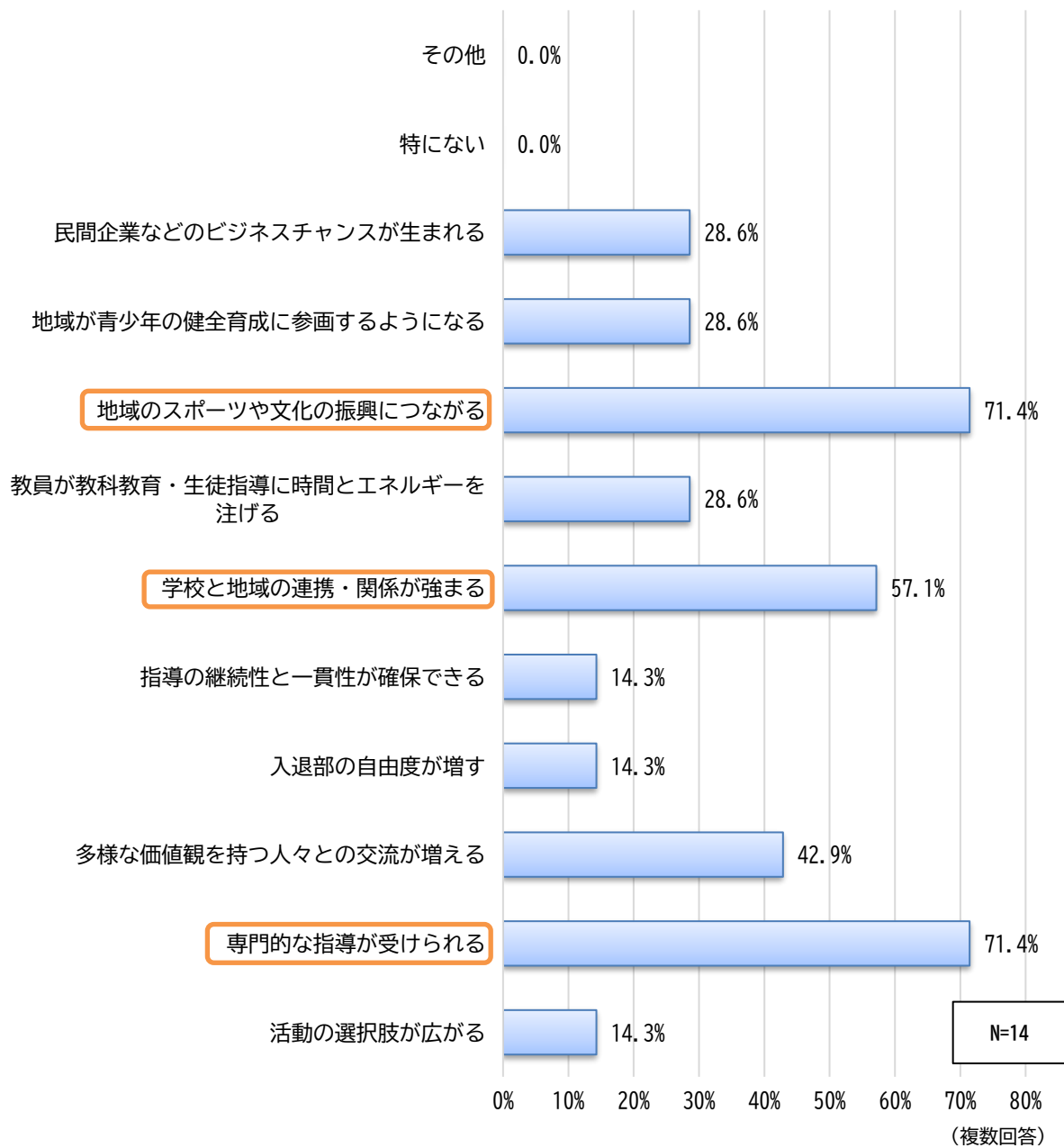
5. -⑤ 部活動の地域移行が平日に導入された場合の意向



- ① やりたくない
- ② あまりやりたくない
- ③ できればやりたい
- ④ やりたい
- ⑤ わからない

○ 平日でも「やりたい」「できればやりたい」を8割以上が回答している。

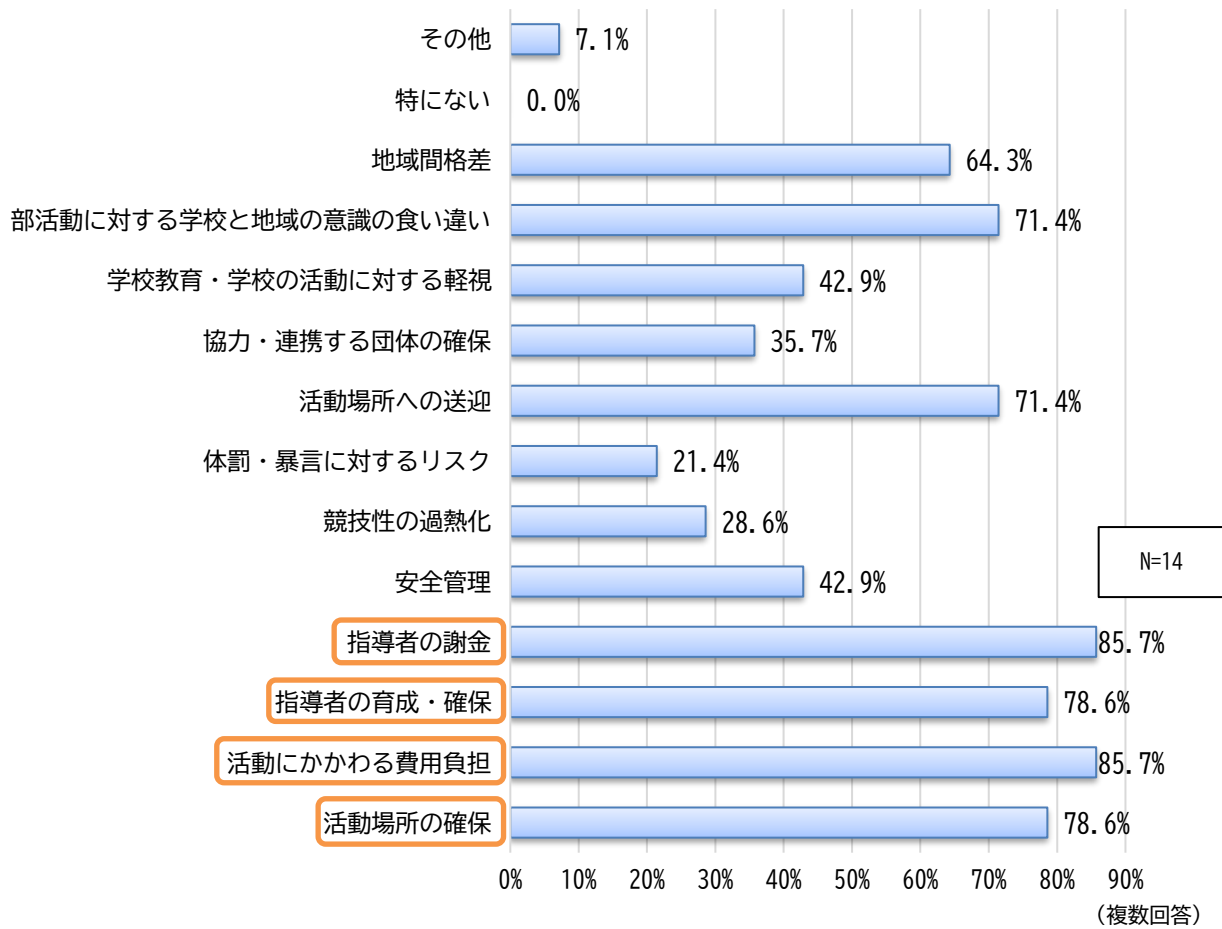
## 5. -⑥ 部活動を地域が担うことへの期待



- 「地域のスポーツや文化の振興につながる」「専門的な指導が受けられる」が上位に挙げられた。専門的な指導を提供するだけでなく、自身が指導することで、地域のスポーツ・文化の振興につながることを期待している。
- 「学校と地域の連携や関係の強まる」も半数を超えている。



## 5. -⑦ 部活動を地域が担うことによる課題



- 指導に際しての「謝金」「活動にかかわる費用負担」が上位に挙げられた。次いで「指導者の確保」「活動場所の確保」が挙げられている。

令和4年度第3回京都府地域部活動推進検討委員会

資料



## 令和4年度京都府地域運動部活動推進事業の事業報告

各自治体の地域移行が円滑に進むための道筋を示す  
～ 地域の実態や特色を活かせる & 段階的な移行が実現できる ～

### 1 舞鶴市、京丹波町を拠点地域とした実践研究の継続

(1) 舞鶴市 ※別途、事業報告

(2) 京丹波町 ※別途、事業報告

### 2 京都府教育委員会「京都府地域部活動推進検討委員会」の継続設置

- ・モデル地域における実践課題の検証及び地域移行の目指すべき方向性について、有識者等より幅広く意見を聴取
- ・舞鶴市、京丹波町を常任として招聘し、意見を聴取
- ・府内5地域の各教育局を常任として招聘し、地域の実態や特色を意見交流に反映
- ・【第1回】7月6日（水） 【第2回】12月8日（木） 【第3回】2月24日（金）

### 3 適切に地域スポーツの機運を醸成する手立ての構築

(1) 説明会の実施（自治体向け、スポーツ関係団体向け）

**第1回説明会** 8月3日（水） 京都学・歴彩館

- ・趣旨：「改革への理解」、「意識づけ」、「行政機関のリーダーシップ」
- ・対象：各市町村スポーツ所管課、教育委員会、スポーツ協会
- ・内容：地域移行の概要、モデル地域実践報告、パネルディスカッション

**第2回説明会** 9月5日（月） 京都テルサ

- ・趣旨：「各自治体内での連携」、「着手できる手法の模索」
- ・対象：各市町村スポーツ所管課、教育委員会、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ代表、スポーツ少年団代表
- ・内容：先行実施地域基調講演、自治体別意見交流

**第3回説明会** 11月24日（木） オンライン中継

- ・趣旨：「令和5年度予算の概算要求状況の把握」、「移行手順の把握」
- ・対象：各市町（組合）教育委員会
- ・内容：国の概算要求及び府の予算要求状況、アドバイザー派遣、府推進計画

**第4回説明会** 2月17日（金） オンライン中継

- ・趣旨：「令和5年度予算の把握」
- ・対象：各市町（組合）教育委員会
- ・内容：令和5年度予算

(2) 地域運動部活動支援アドバイザーの派遣

- ・希望する市町村へアドバイザーを派遣し、協議会設置に向けた助言を行う。

<アドバイザー>

地域運動部活動推進検討委員会委員長、府教委指導主事

<派遣先教育委員会>

宇治田原町、相楽東部広域連合、福知山市、八幡市、宮津市、宇治市

#### 4 各地域が実態に応じて活動を選択できる仕組みや段階的に地域移行をする際の参考事例の提示

##### (1) 京都府地域部活動推進検討委員会「地域スポーツ・文化クラブ活動推進計画（仮称）策定に向けた参考資料」の作成

**ア** 地域移行は、すべての部活動を一律に地域へ移行するのではなく、従来の学校部活動の課題解決や子どものニーズの充足等の観点から有効と考えられる場合に地域と連携し、より良いスポーツ・文化芸術環境の構築を目指す。

→ 令和5年度からの3年間の改革推進期間は、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の継続が困難な地域・学校・学校部活動から着手する。

→ 学校部活動を継続する場合であっても、地域人材の活用など働き方改革を踏まえた部活動改革を進める。

→ 参考資料を基に、京都府推進計画（仮称）の策定に向けた検討を進め、各市町村や学校が、生徒や保護者等の理解を得つつ、地域の実情に合わせて様々な手法の中から選択したり、複数の手法を組み合わせるなどの創意工夫を凝らしながら、段階的に地域移行を進める。

##### **イ** 学校部活動からの新しい活動スタイルを目指す方向性『京都モデル』

1. 多様な子どもたち一人一人を大切にし、誰一人取り残すことなく、個性や能力を最大限伸ばすという視点を踏まえ、持続可能な学校部活動の成立しない地域の子どもたちが、新しい活動の機会においても、自発的に自分の希望するスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができるスタイルを目指す。

2. 子どもたちの成長を見守り支えてきた学校・家庭・地域のコミュニティのそれぞれの強みを活かし、持続可能な学校部活動の成立しない地域の子どもたちが、新しい活動の場においても、安心して自分の希望するスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができるスタイルを目指す。

3. 子どもたちの「よしっ、さあ、やってみよう！」という『スポーツごころ』のはぐくみは、文化芸術活動にもつながる心のありようであり、すべての子どもたちが、新しい体験の機会を通して、自分に適したスポーツ・文化芸術活動の新しい発見やより親しむことができるスタイルを目指す。

##### **ウ** 各地域が実態に応じて活動を選択できる仕組みの構築

→ 地域の実情に合わせて様々な手法の中から選択したり、複数の手法を組み合わせるなど創意工夫を凝らすことが必要であり、移行のハードルが高い地域や移行を推し進めていける地域等、実態に応じた仕組みの選択肢を示す。

**選択Ⅰ** 地域スポーツ団体との連携 … 具体的な連携モデルの提示

・ 行政主導型、単一スポーツクラブ・文化クラブ連携型、  
スポーツ少年団連携型、総合型地域スポーツクラブ連携型

**選択Ⅱ** 府立学校との連携 … 開放型地域スポーツクラブ等の充実

・ 開放型地域スポーツクラブ連携型

**選択Ⅲ** 地域ならではの連携 … 地域の実情に応じたカスタマイズを推進

・ 学校設立型、民間企業連携型

**選択Ⅳ** 校内体制の充実 … 学校部活動への地域人材派遣の継続

・ 地域移行並行型

##### (2) ホームページを作成し、地域移行に係る情報を共有

## 令和4年度京都府地域運動部活動推進事業の実践研究の検証について

### 1 検証項目

- ①生徒にとって魅力ある活動につながったか（生徒の満足度）
- ②教員にとって負担感の軽減につながったか（教員の負担度）

### 2 参照事項

- ・モデル地域（舞鶴市、京丹波町）の事業報告
- ・モデル地域（舞鶴市、京丹波町）での事業検証に係るアンケート結果

### 3 検証結果

検証項目① 生徒にとって魅力ある活動につながったか（生徒の満足度）	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>①専門的な指導者による知識・技術の提供を実感</li> <li>②人数不足による活動の制限が解消</li> <li>③学校部活動の良さに加え、礼儀の習得や新しい友人との交流を実感</li> <li>④平日と異なる指導者による新しい学びを実感</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平日と休日との指導方法の矛盾</li> <li>②パラスポーツやアーバンスポーツへの関心</li> <li>③部活動やクラブに所属しない（関心のない）生徒へのいざない</li> <li>④保護者の負担（経費、送迎等）</li> </ul>
手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平日と休日で指導者が異なる場合の緊密な連携</li> <li>②地域が持つ資源や生徒のニーズの把握</li> <li>③多くの関係者によるネットワークの構築</li> <li>④受益者負担も含めた関係者の経費等負担の分担の整理</li> </ul>

（参考：所属先に求めること）

対象	学校部活動 生徒	学校外クラブ 生徒	地域部活動 生徒	地域部活動 保護者
項目	所属する理由	所属する理由	地域部活動の 良いと思うこと	地域部活動に 期待すること
上位1	体力向上	知識・技術	知識・技術	知識・技術
2	楽しさ・喜び	体力向上	体力向上	楽しさ・喜び
3	新しいことに挑戦	楽しさ・喜び	友人づくり・交流	体力向上
				友人づくり・交流

## 検証項目② 教員にとって負担感の軽減につながったか（教員の負担度）

<b>成果</b>	①専門的指導力不足の解消 ②休日のライフスタイルの改善 ③休日の心身の疲労感の改善
<b>課題</b>	①教員の土曜日の学校部活動、日曜日の地域部活動による土日勤務 ②指導者の高齢化（指導者の確保・育成） ③平日の部活動とのつながり（指導方針、活動場所等）
<b>手立て</b>	①希望する教員の一定の要件に基づく兼職兼業の許可 ②人材バンク等の整備や広報活動等による指導者の確保 ③地域移行ありきではない、地域のスポーツ・文化振興のグランドデザイン構築

（参考：地域が担うことへの期待と課題）

対象	学校部活動 顧問	地域部活動 指導者	学校部活動 顧問	地域部活動 指導者	地域部活動 保護者
項目	地域移行に 期待	地域移行に 期待	地域移行の 課題	地域移行の 課題	地域移行の 負担・不安
上位 1	専門的指導	専門的指導	送迎	指導謝金	送迎
2	教科等に集中	地域振興	費用負担	費用負担	費用負担
3	多様な価値観 との交流	学校・地域連携	活動場所確保	指導者育成・確保 活動場所確保	特にない

## 4 検証結果を踏まえた令和5年度事業の方向性

- (1) 京都府推進計画（仮称）の策定 … 方針の明確化
- (2) モデル地域による実践研究の拡充 … 実践研究の支援
- (3) モデル地域の取組状況等の共有 … 説明会等の開催やホームページの充実
- (4) 指導者の人材確保 … 人材バンクの開設等に係る関係機関との連携に向けた研究
- (5) 開放型地域スポーツクラブの新規設置 … 府立学校との連携を協議
- (6) アドバイザー派遣による指導助言 … 各地域での具体的協議への指導助言

# 令和4年度地域運動部活動推進事業

## 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	京丹波町教育委員会 担当課：学校教育課 電話番号：0771-84-0028
------	--

### 1. 事業の概要について

#### 1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	3校	② 生徒数	245人	③ 部活動数	19部活
--------	----	-------	------	--------	------

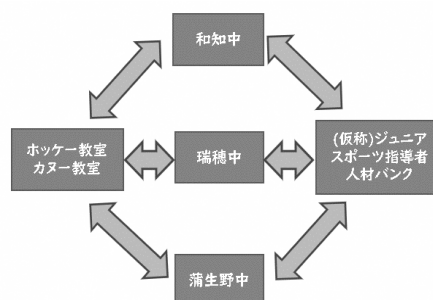
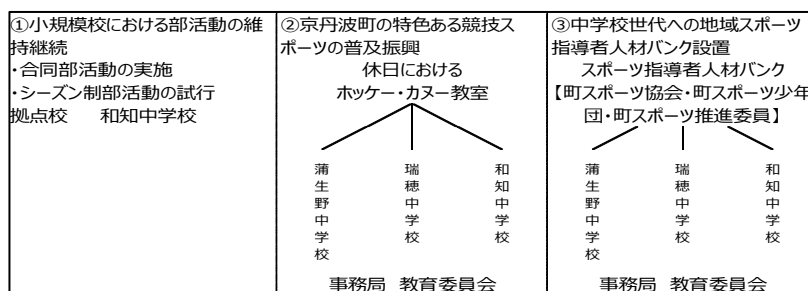
#### 1.2 地域における現状・課題

- ・ 少子化が著しく進展し、町立3中学校とも、生徒数の減少により、町立中学校の複数の部活動の維持継続が困難な状況に直面している。休日等の部活動指導で、疲弊感が高まっている教員もいるが、急速な高齢化と相まって、地域の外部指導者の人材確保は困難な状況となっている。生徒ができる限り自由に選択可能な部活動の維持継続及び教員の働き方改革の実現に向け、部活動の持続可能で多様な在り方について実践研究を行った。

#### 1.3 実践研究における取組目標

- ・ 小規模校における部活動の維持、継続（町立中学校の令和4年度当初の部活動設置数を維持する。）
- ・ 京丹波町の特色ある競技スポーツの普及、振興
- ・ 地域スポーツ指導者の人材バンクの設置

#### 1.4 実践研究の運営体制



### 2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

- ・ 京丹波町部活動検討委員会を設置 第1回会議 令和5年1月20日（金） 会議回数等 1回  
〔委員会構成〕中学校長、町スポーツ協会、町スポーツ少年団、町スポーツ推進委員、教育委員会

○内容：

- （1）部活動地域移行に係る経過
- （2）京丹波町における部活動地域移行の方向性について
- （3）令和5年度事業（案）について

### 3. 実践研究校における取組について

#### 3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	域内全3中学校のうち、3校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	3部活
③ 種目	ホッケー部（男女）、フリースポーツ部

《主な取組例（1）》…京丹波町立和知中学校

① 運営主体	京丹波町		
② 種目	フリースポーツ部（カヌー体験）	③ 参加者数	7人
④ 活動日	7/25、8/1、8/10	⑤ 活動場所	和知 B&G 海洋センターカヌー艇庫
⑥ 指導者人数	3人	⑦ 謝金単価	1人あたり1,500円/時間
⑧ 指導者属性	町カヌー協会に所属の指導者3名を指導者として派遣		
⑨ 参加会費の有無・金額	徴収なし		



《主な取組例（２）》…京丹波町立蒲生野中学校及び瑞穂中学校

① 運営主体	京丹波町		
② 種目	ホッケー部（ホッケー教室）	③ 参加者数	37人
④ 活動日	1/14	⑤ 活動場所	グリーンランドみずほホッケー場
⑥ 指導者人数	8人	⑦ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑧ 指導者属性	町ホッケー協会所属の指導者3名を指導者として派遣		
⑨ 参加会費の有無・金額	徴収なし		

3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

（生徒）平日と休日の指導者が変わることについて、よりたくさんの方が学べるので嬉しいと感じる。

（保護者）今後の地域部活動を進めるにあたって、活動への送迎について、負担感や不安感を感じている。

（顧問）平日休日ともに、地域人材に指導を任せたいというのが本音である。

（指導者）やりがいを感じた。専門性を発揮することができた。学校の先生との調整が必要である。

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

- ・指導者の高齢化及び後継者不足であり、今後の受け皿の確保が難しい。
- ・今まで学校で行っていた部活動のすべての活動をフォローできるのではなく、一定の整理が必要
- ・将来的に、休日と平日の活動を区別するのか
- ・学校部活動を移行するという考え方ではなく、京丹波町がもっているスポーツの力や環境の力が醸成され、自然と学校から移るのが理想の形

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

①部活動設置数 維持 19部

令和4年度、町立中学校の運動部活動は合計19部あり、活動を維持することができた。

【蒲生野中学校】運動部活動 9部 【瑞穂中学校】運動部活動 6部 【和知中学校】運動部活動 3部

②京丹波町の特色ある競技スポーツの普及、振興させる。

- ・ホッケー教室を開催し、地域の小学生、中学生、高校生、一般の方が参加、地域の多世代の方と交流することができた。
- ・フリースポーツ部において、新規団体から新しい種目の提案があり、生徒が新たなスポーツ（インラインスケート）に取り組むことができた。また、各中学校合同での活動も実施することができた。
- ・町内にある京都トレーニングセンターを利用して、小学生中学生対象に体力や競技力の向上に係る専門的な指導の他、メンタル面や栄養面の指導を受けた。

③（仮称）ジュニアスポーツ指導者人材バンクの設置

京丹波町部活動検討委員会を開催し、人材バンクの設置を検討することができた。

第1回会議 令和5年1月20日（金）

4.2 地域移行における今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】 町部活動検討委員会の開催（年3回程度）	【受け皿団体の確保方策】 町部活動検討委員会の開催により受け皿団体の確保方策の検討
【指導者の確保方策】 町部活動検討委員会の開催により指導者の確保方策の検討	【困窮世帯への支援方策】 町部活動検討委員会の開催により困窮世帯への支援方策の検討
【地域移行の自走化に向けた方策】 町部活動検討委員会の開催により自走化に向けた方策の検討	【地域特有の課題への対応策】 京丹波町の特色ある競技スポーツの普及、振興について検討

# 地域運動部活動推進事業モデル地域 令和4年度 実践報告

京丹波町教育委員会

学校教育課 大秦 学

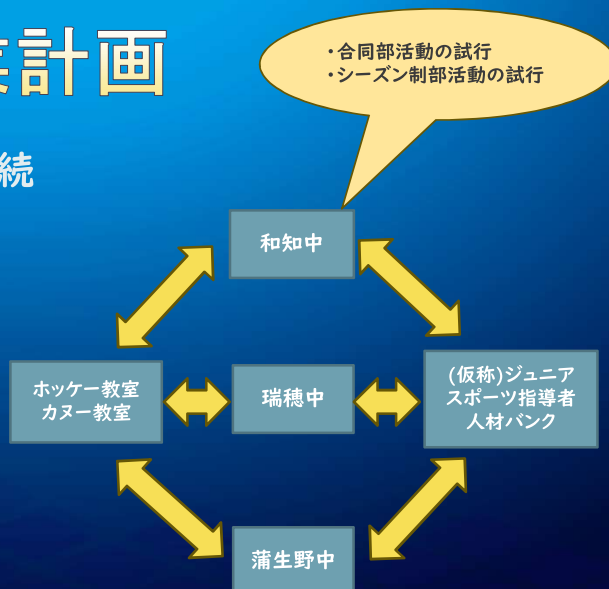
1

## 令和4年度 事業計画

・小規模校における部活動維持継続  
拠点校:和知中学校

・京丹波町の特色ある  
競技スポーツの普及振興

・地域スポーツ指導者  
人材バンク設置



2

# 令和4年度 実施報告

和知中学校 フリースポーツ部  
・カヌー教室 (全3回)

R4.7.25

R4.8.1

R4.8.10



3

# 令和4年度 実施報告

和知中学校 フリースポーツ部  
・インラインスケート体験

▶ 経緯

京都新聞の部活動に関する記事  
を読んで、インラインスケート協会  
より、競技を紹介したいとの打診

R4.9.10

R4.11.5

R5.1.14 計3回



4

# 令和4年度 実施報告

瑞穂中学校 SMAP (総合文化部)

・Science・Music・Art・Personal computer



5

# 令和4年度 実施報告

京丹波町の特色ある競技スポーツ:ホッケー

＜蒲生野中・瑞穂中＞

→ 京都府選抜(11人制)に選出

☆ 合同練習の実施(グリーンランドみずほ)



6



# 令和4年度 実施報告

京丹波町の特色ある競技スポーツ:ホッケー  
＜ホッケー教室＞

- ▶ R4.1.15 (大雪のため中止)
- ▶ R5.1.14

7

# 令和4年度 実施報告

- ▶ 町立中学校による  
京都トレーニングセンター (HPSC) の活用  
☆体力競技力向上に係る専門的な指導

8

## 令和4年度 実施報告

### 地域スポーツ指導者人材バンク設置

→ 京丹波町部活動検討委員会により検討

令和5年1月20日開催

- ・現状の把握、これまでの取組・経過報告
- ・令和5年度 事業計画

9

## 課題や意見

- 少子化 ⇒ 部活動が実施できない
- 指導者の高齢化（後継者不足）
- 受け皿が確保されるのか
- 学校で今までやってきた部活動が文化部を含めて、すべての活動がフォローできるわけではない
- 将来的に、休日と平日の活動を区別するのか。
- 学校の部活動を移行していくから考えるのではなく、京丹波町がもっているスポーツの力や環境の力が醸成されて、学校から自然と移るとするのが理想の形 等々

10

## 令和5年度 計画(案)

### 京丹波町部活動検討委員会

- ・教職員へのアンケート実施
- ・地域移行の日を計画  
⇒地域スポーツと中学生の交流

11

ご清聴ありがとうございました。

京丹波町教育委員会

大 秦 学

12